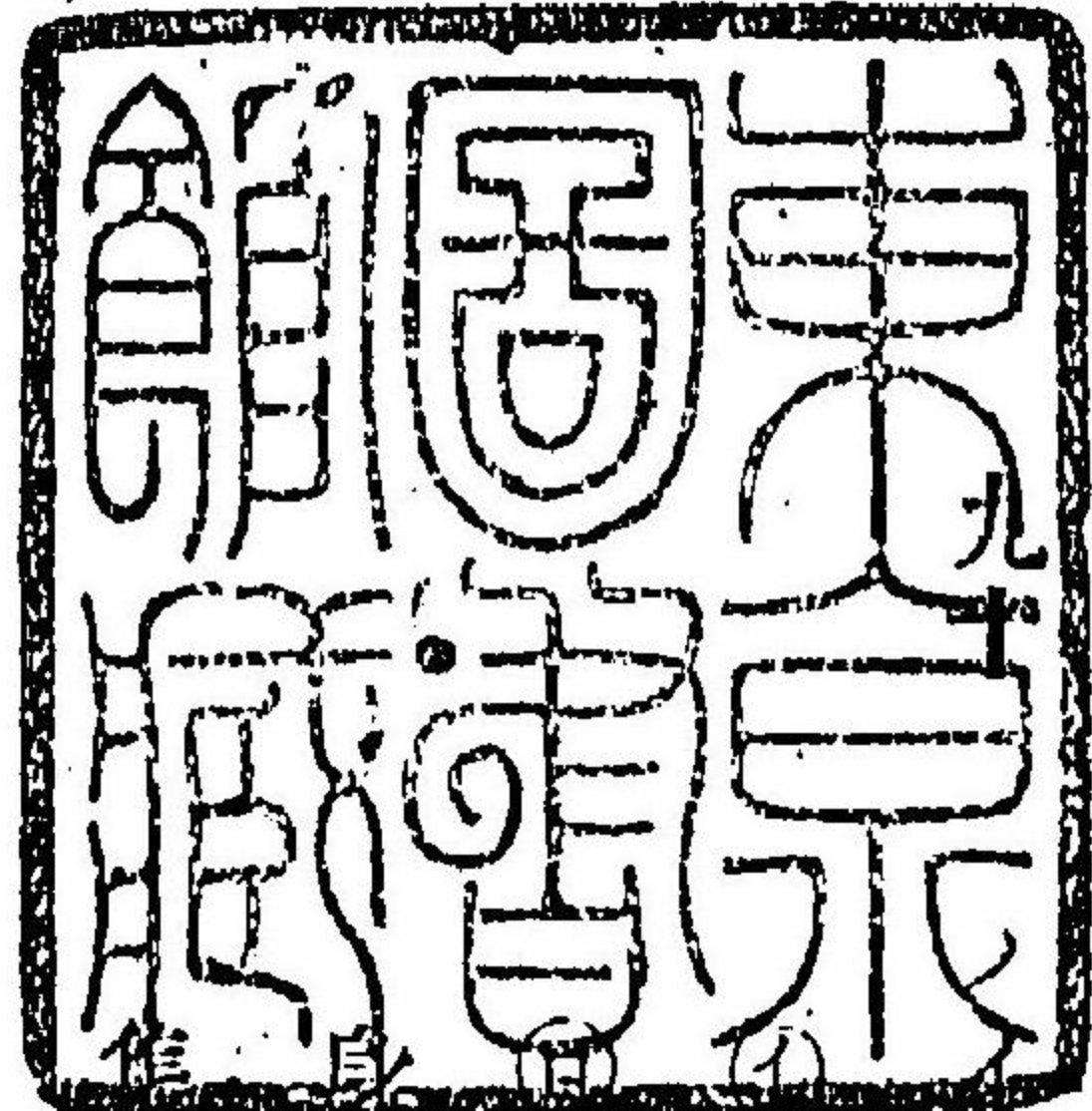


No 10022

093
301

獨逸法律書目錄

第九册



ハッス氏行政諸規則實施上ノ説明上

千八百二十年十二月三十日ノ憲兵編制布告

法律ヲ遵奉セシムル爲メ兵力ヲ用ヒルコト

身軀自由保護規則 千八百五十年二月十二日

集會及ヒ組合權ヲ濫用シテ自由及ヒ安寧ヲ害スルコトヲ防

ク布告 千八百五十年三月十一日

獸獵警察規則 千八百五十年三月七日

同附録

水利ニ關スル法律



第一編 水ノ種類ニ關シ各別ノ通則

第二編 水ノ自然ノ經過

第三編 人工ニテ水ヲ落ス

第四編 水ヲ堰ク

第五編 人工ヲ以テ水ヲ灌ク

第六編 水ヲ落シ水ヲ漑ク爲メ組合ヲ作ル

第七編 水ニ對スル防護

九十一 ノイハツス氏行政諸規則實施上ノ説明中

道路警察

公道警察

分等税及ヒ分等收入税

故障

取立

分等收入税

土地税

家屋税規則 千八百六十一年
五月二十五日

營業税

鐵道規則

九十二 ノイハツス氏行政諸規則實施上ノ説明下

營業規則原由

營業規則

第三編 行商營業

第四編 市場賣買ノヲ

第五編 公ケニ定メタル物品ノ價格表

第六編 營業者組合

第七編 職工ノヲ

第一章 職工ニ關スル規則

第二章 手傳人ニ關スル規則

第三章 丁稚ニ關スル規則

第四章 製造場ノ職人ニ關スル規則

第八編 營業上ノ救助貯蓄所

第九編 地方規則

第十編 罰則

營業ニ關スルカ又ハ營業ニ屬スル規則

(第一)千八百七十四年五月七日ノ出版條例

一般ノ說明

各條ノ說明

(第二)千八百十年十一月八日ノ雇人規則

(第三)雇人耕作雇人ノ義務ヲ怠リタルヲニ關スル

法律 千八百五十四年
四月二十四日

(第四)負債ニ付キ拘留ヲ廢スル法律 千八百六十八年
五月二十九日

(第五)鐵道鑛業等ニ因テ人ヲ死傷スル者ノ損害賠

償ニ關スル法律 千八百七十一年
六月七日

(第六)貯金預所規則 千八百三十八年
十二月十二日

(第七) 共益組合及耕作組合ノ民法上ノ關係ヲ定ム

ル法律千八百六十八年七月四日

警察法

調藥店及調藥師

九十三

賞牌褒賞布告千八百十年一月十八日

千八百六年九月三十日布告

附錄

「コロー子ンヲルデン」ヲ造ル布告千八百六十八年十月十八日

王冠賞牌

千八百三十年一月十八日ノ赤鷲賞牌ノ二等ヲ二種ニ分ツ

布告

千八百六十五年一月十八日一等赤鷲賞牌ト一等王冠賞牌

ヲ同時ニ佩用スル布告

鐵ノ十字架ヲ改造スル布告千八百七十年七月九日佛獨開戰宣告ノ日

千八百五十一年八月二十三日ノ「ホーヘンツオルレルン」

家ノ賞牌規則

千八百六十一年十月十八日「ホーヘンツオルレルン」王家

ノ賞牌ヲ増加スル布告

千八百四十二年五月三十一日學藝技術ノ爲メ「プーメルメリ

勳功賞牌

」ト別段ナル等級ヲ設クル布告千八百一十一年一月十八日布告見合

千八百三十三年二月一日ノ災厄ニ遭ヒタル者ヲ救済スル

者ノ爲メ與フル褒牌布告

千八百十四年八月三日今節ノ七母ルイゼン「賞牌ヲ設クル布告

千八百五十年七月十五日「ルイゼン」賞牌ヲ改正スル布告

千八百六十五年十月三十日千八百十四年八月三日ノ布告

ニ因テ設ケタル「ルイゼン」賞牌ヲ改正スル布告

千八百七十一年三月二十二日ノ婦女子ニ與フヘキ十字架
布告

同年同月同日ノ婦人ニ與フル十字架ヲ設クル布告

千八百六十四年十二月七日ノ「アルゼン」十字架ヲ設クル
布告

千八百六十六年九月二十日ノ千八百六十六年出陣記念十
字架ヲ設クル布告

九十四 日本刑法會議附錄

千八百八十一年一月初旬ヨリ三月下旬マテ在柏林大學大

博士「ベル子ル」氏ニ就テ開キタル日本刑法會議附錄

千八百七十八年八月十五日ヨリ二十六日マテ「ストツ

クホルム」監獄會議ノ議事拔萃

第一 刑法

第二 監獄

第三 豫防法

會議ニ差出シタル意見書ノ目錄

法學士「ワインヌ」氏ノ略傳

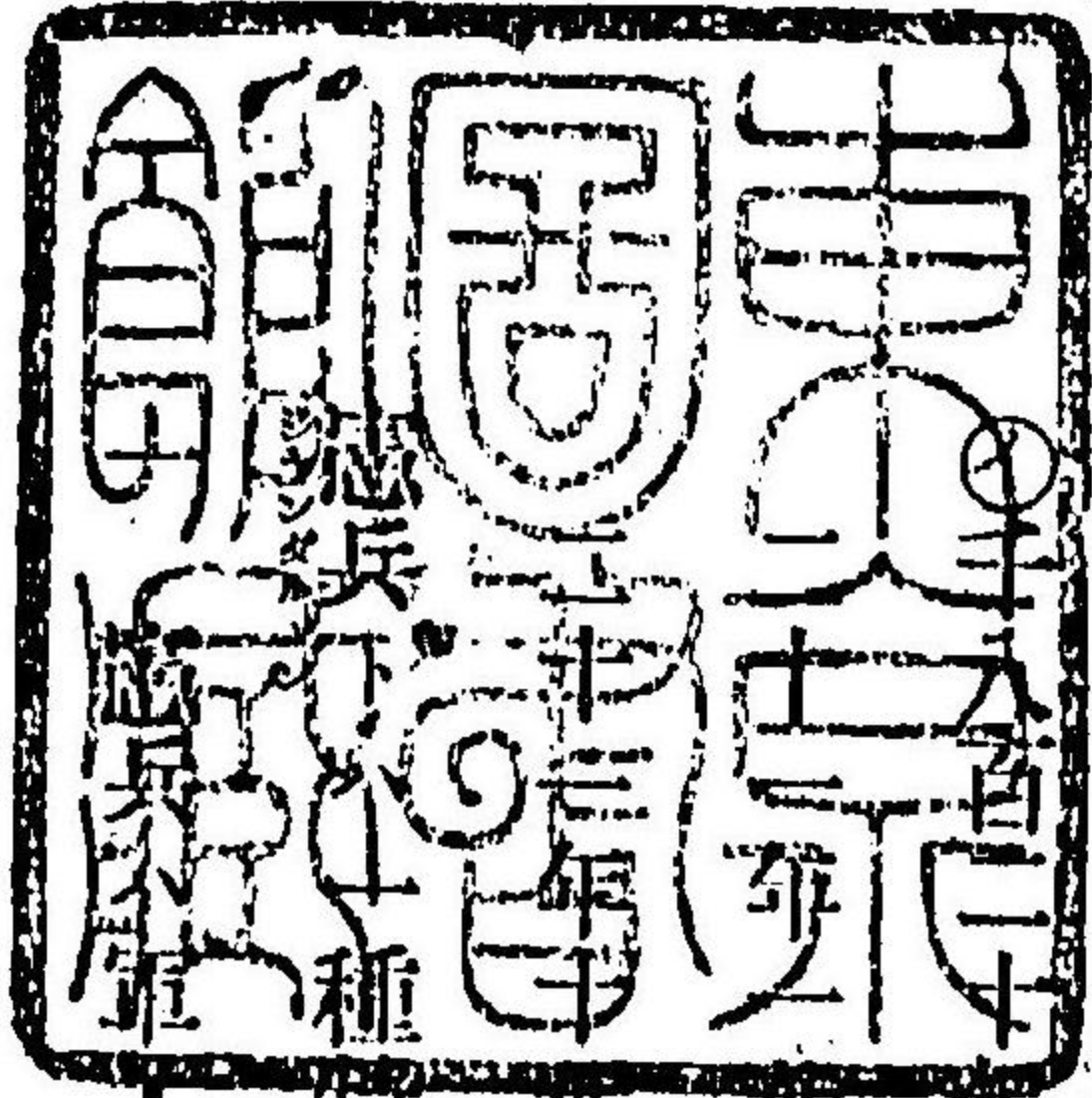
九十五 羅馬刑法

九十六 刑法問答

獨逸法律書

第九冊

ノイハゥス氏行政諸規則實施上ノ説明上



普國法律全書千八百一十二年十二月三十日ノ憲兵編制布告(普國法律全書千八百一十二年十二月三十日ノ憲兵編制布告(普國法律全書千八百一十二年十二月三十日ノ憲兵編制布告)及ヒ同年同月同日ノ憲兵職務章程(法律全書千八百一十二年十二月三十日ノ憲兵編制布告)ノ如ク編制セラル、者ナリ(布告第二條ヨリ第四條)

種特別ノ者ナリ(軍人ニ非ラス又警察官ニ非ス)

マテ第六條ヨリ第十一條マテ職務章程ノ一條ヨリ十五條マテ)

二 憲兵ノ職務ハ一般ニ云ヘハ國內ノ安寧秩序ヲ維持シ及ヒ之ニ關スル法律及ヒ命令ノ施行ヲ助クル者ナリ(布告十二條)

ノイハゥス氏説明上

三 憲兵ノ職務ヲ行ハシムルカ爲メ内務卿ハ憲兵ノ司令長官ト協議シテ國內ニ割付方法ヲ定ムヘシ(布告第五條)

四 憲兵ハ其職ニ付テハ全ク文官ニ附屬スヘシ則チ通常ハ郡長ノ下ニ屬スルモノナリ

文官ハ憲兵ノ職務ニ付テハ直チニ指揮命令ヲ爲スノ權アリ然レモ懲罰スルノ權ナシ其命令ノ法律ニ適ヒタルカ又ハ便利ナルヤ否ニ付テハ其長タル文官ニテ其責ヲ負擔スヘシ憲兵ハ止タ之ヲ直チニ執行スルノ責ヲ有スルノミ

長タル文官ノ外ニハ至急ヲ要スル場合ニ非サレハ直チニ憲兵ニ命令ヲ爲スコトヲ得ス他ノ文官ハ止タ其長タル文官ニ依頼シテ其命令ヲ爲スコトヲ得(編制布告第二條第十七條第十八條)然レモ郡規則第

六十五條ニ因レハ區長ハ警察事件ニ付キ直チニ憲兵ニ依頼スル權アリ憲兵ハ其依頼ヲ肯ニス可シ又千八百七十九年一月八日ニ内務卿ヨリシテ編制布告ノ第十八條ニ付キ指令ヲ爲シタリ此指令ニ因レハ憲兵ハ區長ヨリ依頼シタル事ノ法律ニ適ヒタルヤヲ檢査スルノ權ナシ然ナカラ其依頼スルコトノ匪法ナルモハ之ヲ肯カハサルコトヲ得

憲兵ノ職務ノ異ル所ハ憲兵ハ地方警察官ト共ニ職務ヲ奉スレモ或ル事ニ付テハ命令又ハ指令ヲ受ケスシテ自己ノ職務上ヨリ之ヲ掌ルヘキコトアリ(編制布告第十二條第十四條職務章程ノ十八條ヨリ二十六條マテ第二十九條)

憲兵ノ長官タル文官武官ハ互ニ上下ノ關係ナシ(各獨立シタルモ

ノイハツス氏説明上

ノナリ)(編制布告十八條)憲兵ハ職務章程ノ第二十八條ニ掲ケタル場合ノ外其佩ヒタル劔ヲ使用スルコトヲ得ス

其規則ハ千八百五十四年二月四日ノ布告ニ因テ(内務行政布達第六十九條)憲兵ノ外ニ執行警察官及ヒ巡查ニモ及ホシタリ

㊦法律ヲ遵奉セシムル爲メ兵力ヲ用ヒルコト

法律ヲ遵奉セシムル爲メ警察官ノ力足ラサルハ兵力ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

普國憲法ノ第三十六條ニ左ノ如ク定メリ

内亂ヲ鎮制シ及ヒ法律ヲ施行スル爲メ兵力ヲ用フルニハ止テ法律ニ定メタル場合及ヒ方法ニ限り且文官ノ依頼ニ因テ之ヲ用フルコトヲ得但終リノ關係ニ於テハ法律ヲ以テ格外ヲ定ムヘシ(籠城ノ場

合ニハ依頼ナクシテ用フルコトヲ得)

又左ニ掲クル法律ニ因リ武官ノ補助ヲ求ムルヲ得

一 一揆徒黨ノ際警察官ハ之ヲ防禦鎮制スル爲メニ武官ノ補助ヲ求ムルヲ得(千七百九十八年十二月三十日ノ布告ハ千八百三十五年八月十七日ノ布告ノ附録ト爲レリ法律全書千八百三十五年百七十葉)

二 縣廳及ヒ千八百八十年ノ行政編制法ニ從ヒ縣令ハ執行權ヲ行フニ當リ千八百八十年十二月二十六日ノ布告第四十八條第三ノ場合ニ於テ(千八百七十七年十月二十三日ノ縣廳職務ニ關スル指令ノ附録トナレリ)及ヒ千八百二十五年十二月三十一日ノ縣廳職務ニ關スル指令ニ定メタル場合ニ於テ武官ノ補助ヲ求ムルヲ得

ノイハウス氏説明上

又千八百三十七年四月廿日ノ軍人ノ佩劍ヲ使用スルヲ得ル規則ヲ見合スヘシ(普國法律全書六十葉)千八百八十一年一月廿九日ノ捕縛拘留ノ爲メ劍ヲ用フルコトニ付キ指令ヲ國王ヨリ許可セリ
司法省布達全書第三十五葉

普國憲法第三十六條ニ定メタル文官ノ依頼ナクシテ武官ヨリ法律ヲ遵奉セシムルカ爲メ兵力ヲ用フルノ格外ハ千八百五十一年六月四日ノ籠城規則ニ定メタリ(普國法律全書四百五十一葉)
山林獸獵ニ關スル官吏ノ劍ヲ使用スル權ハ千八百三十七年三月三十一日ノ法律(普國法律全書六十五葉)ニ定メタリ又千八百七十八年四月十五日ノ法律第二十三條ヨリ第二十五條マテヲ見合スヘシ(普國法律全書二百二十二葉)

千八百五十年三月十一日ノ法律ニ於テ一揆ノ際ニ生シタル損害ヲ團結ヨリ償却スヘキ義務ヲ定メタリ(普國法律全書百九十九葉)

身体自由保護規則

千八百五十年二月十二日發(普國法律全書十五葉)

第一 此規則ハ全ク千八百七十七年二月一日ノ治罪法ノ第一卷第八章九章(第九十四條ヨリ第三百三十二條マテ)ニ因テ廢セラレタリ
(獨逸法律全書二百五十三葉)

此規則第一條(捕縛)ニ當ルヘキモノ治罪法第百十四條第二第三(拘留)ニ當ルモノハ同第百二十七條第四條第五條(裁判官ノ審問)ニ當ルモノハ同第百十四條第百二十八條第百二十九條ナリ

第二 止タ現存セル箇條ハ第六條ノ警察官ニテ留置(醉人等ヲ一時)クナリ

第三 第七條ヨリ第十條マテハ夜間他人ノ家宅ニ侵入スルコト第十一條第十二條ハ家宅探索ノコトヲ定メタルナリ

治罪法ニハ他人ノ家宅ニ侵入スルコトニ付テハ別段ニ箇條ヲ設ケス止タ家宅搜索ト混シテ定メタルナリ其第百五條ニ於テハ何人カ家宅搜索ヲ命スヘキヤヲ定メ第百二條第百三條ニ於テハ何人ノ家宅ヲ搜索シ得ヘキヤヲ定メ第百四條ニ如何ナル場合ニ於テ夜間ニ搜索シ得ヘキヤヲ定メタリ故ニ此規則ノ第七條ヨリ第十二條マテハ廢セラレタルモノナリ止タ此規則第九條ノ出火出水生命危急ノ場合助ヲ喚ハル時又第十條ノ末文ノ存スルノミナリ

第四 此規則ニ背ク者ハ獨逸刑法第二百二十三條第二百三十九條第三百四十一條第三百四十二條第三百五十八條ノ刑ニ處スヘシ

千八百五十年三月十一日(集會及ヒ組合權ヲ濫用シテ自由及ヒ安寧ヲ害スルコトヲ防ク)布告(普國法律全書二百七十七葉)

此布告ハ千八百五十年一月三十一日ノ普國憲法第二十九條第三十條ヲ實行シタルナリ

此布告ニハ

- 一 第一條ニ於テハ公ケノ事件ヲ評議討論スヘキ一切ノ集會ヲ定メタリ
- 二 第九條ヨリ第十一條マテハ家屋外ニテノ集會ヲ定メタルナリ
- 三 第二條ヨリ第四條マテハ公ケノ事件ニ關スル組合ヲ定メタル

ノイハッス氏説明上

ナリ

十

四 第八條ニ於テハ政体ニ關スル組合ヲ定メタルナリ
五 第二十一條ノ二項ニ於テハ撰擧組合ヲ定メタルナリ
此布告ハ(二三)宗旨ニ關スル組合及ヒ集會ノ法律上人ト看做スヘ
キ權利ヲ有スル者ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス又法律ニ因ル集會及
ヒ兩議院ノ集會及ヒ軍人集會ニハ之ヲ適用ス可カラス
都テ集會ヲ爲スニハ届出ヘシ(第一條)家屋外ノ集會ヲ爲スニハ許
可ヲ得ヘシ其許可ハ第九條二項ノ場合及ヒ第十一條ノ場合ニ於テ
ハ之ヲ許ス可カラス
都テ組合ハ規則ト社員氏名簿ヲ差出スヘシ(第二條)政体ニ關スル
組合ニ限り其外ニ第八條ノ制限アリ

警察官署ハ一人又ハ二人ノ委員ヲ集會場ニ派出セシメ之ヲ解散セ
シムルヲ得(第四條第五條)又政体ニ關スル組合ヲ廢止セシムルコ
トヲ得(第八條)

第十二條以下ニハ罰則及ヒ政体組合ノ廢止ヲ定メタリ

千八百五十年三月七日ノ獸獵警察規則

普國法律全書百六十五葉

千八百四十八年十月三十一日ノ法律(普國法律全書第三百四十三
葉)ハ從前他人ノ土地ノ上ニ獸獵ヲ爲シ得ヘキ權ヲ廢シ後來ハ獸
獵ヲ土地ニ屬スル權トシテ土地ヨリ分ツコトヲ禁シ專ラ土地所有者
ヲシテ其土地ニ獸獵ヲ爲スコトヲ得セシメ且獸獵權ヲ行フニ付キ定
メタル制限ノ其安寧ヲ保護シ及ヒ五穀ノ損害ヲ防ク爲メニ非サル

ノイハウス氏説明上

十一

者ハ一切之ヲ廢止シタリ

又獸獵禁制時刻ノ規則ヲモ廢止セリ

此法律ニ因テ著シキ弊害ヲ生シタレハ之ヲ改正スル爲メ千八百五十年三月七日ノ獸獵警察規則ヲ發シタルナリ

但此規則ハ固ト警察上ノ規則ナレハ獸獵權ト土地トノ關係ヲ改正スルノ趣意ニ非ス(是等ハ民法上ノ關係ナリ)止タ左ニ掲クル如キ獸獵權ヲ行フ制限ヲ定メタルナリ

一 獸獵ヲ爲サントスル者ヨリ公安ヲ害セサラシメンカ爲メ多少ノ保證ヲ求ムルナリ(第十四條第十五條獸獵鑑札及ヒ之ヲ交付セサル理由)

二 土地所有者ヨリ其地内ニテ獸獵ヲ爲サントスルルハ此規則第

二條ニ掲ケタル場合ニ限り之ヲ許シタリ

三 都テ其他ノ(第一條ニ屬セサル)土地ニシテ一團結内ニ在ル者ハ之ヲ一獸獵區ニ合併シ(第四條)其官署(第九條)則チ團結官ヲシテ管理セシムルナリ其團結官ハ或ハ獸獵ヲ行ハサルカ又ハ第十條ノ二三ニ從テ之ヲ行ハシムルコトヲ得ルナリ

四 獸獵ヲ禁制スル時限ヲ再ヒ定メタリ

其期限ハ各州毎ニ異ナリアリタレモ千八百七十年二月二十六日ノ法律ヲ以テ全國同一ニ定メタリ(普國法律全書百二十葉)

一ニ掲ケタル第十四條第十五條ニ付キ一タヒ交付シタル鑑札ヲ再ヒ取上クヘキコトヲ得ルヤ否ノ疑ヲ生セリ併ナカラ此疑問ハ千八百七十六年七月二十六日ノ行政權限法第九十三條ニ因テ明白

ノイハウス氏説明上

ニ取上クルコトヲ得ヘシトナレリ(千八百七十七年六月十六日ノ
上等行政裁判所判決録二卷二百二十三葉)

二ノ場合ニ付キ第一ニハ第四條以下ニ定メタル合併獸獵區ヲ獨
立地(里)ニモ適用スヘキヤ否ノ疑ヲ生シタリ然レモ内務卿ハ千
八百五十年三月十一日ノ團結規則第一條及ヒ第四百四十六條ヲ見
合セテ千八百七十三年五月六日ニ指令ヲ發シ適用スヘシト定メ
タリ

第二ニハ村内ニ於テ合併シタル土地ノ大サ三百「モルゲン」ニ(第
二條)至ラサル者ハ之レニ拘ハラズ一獸獵區ヲ作ルヘキカ又ハ
近接セル獸獵區ニ合併セシムヘキカ否ノ疑ヲ生シタリ然ルニ内
務卿ハ三百「モルゲン」ニ至ラスト雖モ一獸獵區ヲ作ルヘキコトニ

決セリ(千八百六十三年十一月十三日及ヒ千八百七十年一月七
日ノ指令内務布達全書千八百六十三年二百三十七葉千八百七十
年十六葉)但此規則決議ノ時一院ニ於テハ之ニ反對セル説アリ
シナリ

千八百五十年三月七日ノ獸獵警察規則

附録

獸獵權ノ意義ハ其動物ニ付テハ千八百四十八年十月三十一日ノ法
律及ヒ千八百五十年三月七日ノ此規則ニモ曾テ定ムルコトナシ
然レモ普國法律全書第一篇第九章第二百二十七條及ヒ第二篇第十六
章第三十條ニ從ヘハ獸獵權ハ止タ獵狩スル獸類ノミニ限り其他ノ
獸類狼熊ノ類人ニ害ヲ爲スモノ何人ニテモ自由ニ捕フルコトヲ得ル

ノイハウス氏説明上

ナリ(普國法律全書第二篇第十六章第三十三條第三十四條)如何ナル動物ヲ獵狩スル動物ト看做スヘキヤハ各州ノ法律ニ於テ之ヲ定ムヘシ(普國法律全書第二篇第十六章第三十一條第三十二條)(人ノ食物ニ供スル鳥獸ハ獸獵權ヲ有スル者ニ非サレハ捕フルコトヲ得ス)普國法律全書ニ於テ獸獵ノ上中下ノ區別ヲ設ケシナレド千八百四十八年十月三十一日ノ法律ニ因テ之ヲ廢セリ自由ニ動物ヲ捕フルコトニ付テハ普國法律全書第一篇第九章百七條ヨリ百二十六條マテ及ヒ第二篇第十六章第三十五條ニ定メリ又第一篇ノ第九章第百七十條ヨリ第百七十五條マテヲ見合スヘシ

百七條 人ノ未タ捕ヘテ養ハサル動物ヲ捕フルコトヲ得

百八條 然シナカラ人ノ捕ヘテ養ヒタル動物ニテモ再ヒ放テ野

獸ト爲リタルキモ亦同

百九條 自由ニ飛走スル獸物ニテモ一定ノ場所ニ歸宿スルモノ之ヲ捕フルコトヲ得ス

百十條 然シナカラ其場所ニ歸宿セサルヤウニ成リタルキハ捕フルコトヲ得

百十一條 權利ナクシテ養ヒタル鳩ハ屋外ニ於テハ之ヲ取押フルコトヲ得

百十二條 何人カ鳩ヲ養フ權ヲ有スルカハ州ノ法律ニ因テ定ムヘシ

百十三條 別ニ定メナケレハ家屋ノ周圍ニ大ナル田畑ヲ所有スルカ又所有セストモ之ヲ使用スル權ヲ有スル者ハ鳩ヲ養フノ

權アリ

百十四條 百七條ヨリ百十一條マテニ從テ何人ニテモ捕フルコ
 ヲ得ル蟲又ハ他ノ動物ハ獸獵權又ハ漁獵權ヲ有スル者ニ限リ
 捕フコヲ得ヘキモノニ非サレハ何人ニテモ之ヲ捕フルコヲ得
 百十五條 以上ノ動物ヲ捕フル爲メ所有者ニ知セスシテ其土地
 ニ入ル者ハ其捕ヘタル物ヲ所有者ノ求メニ因テハ無料ニテ引
 渡スヘシ

百十六條 所有者ニテ獸類ヲ捕ヘン爲メ網罟等ヲ設ケタルモノ
 ハ之ニ罟リタル獸類ヲ捕フルコヲ得ス若シ之ヲ取りタル片ハ
 盜罪ヲ以テ論セラルヘシ

百十七條 鳥ノ卵又ハ雛ハ警察規則ニテ之ヲ禁セサレハ何人ニ

テモ之ヲ捕フルコヲ得

百十八條 自己ノ所有地内ニ於テ蜂ヲ養フコハ隨意タルヘシ

百十九條 樹林中ニ蜂ヲ養フコハ山林所有者ニ限リ之ヲ養フコ
 ヲ得

百二十條 山林中ニ獸類ヲ牧畜スル權ヲ有スル者ハ其所有者ニ
 對シ蜂ヲ養フコヲ拒ムコヲ得ス

百二十一條 蜂ヲ飼フハ蜂窠ヲ有スル者ノミニ限リ其權アリ

百二十二條 蜂窠ヲ有スル者ハ其蜂ヲ追テ他人所有地ニ入り之
 ヲ捕フル權アリ

百廿三條 然レモ其土地ノ所有者ニ之カ爲メ生シタル損害ヲ償
 フヘシ

百廿四條 所有者ニテ其蜂ヲ捕フルコトヲ放棄シタルハ其蜂ヲ見出シタル土地所有者ハ之ヲ捕フルノ權アリ

百廿五條 野生ノ蜂又ハ所有者ヨリ放棄シタル蜂ヲ他人ノ所有地ニ於テ捕ヘタル者ニ付テハ百十五條ニ從フヘシ

百廿六條 地方警察官署ハ規則ヲ發シテ蜂ヲ捕フルコトヲ禁シ又ハ破壊シタル蜂窠ヲ取除クヘキコトヲ定ムル權アリ

第二篇 第十六章

三十五條 山林又ハ獸獵區内ニアル狼又ハ熊ノ類ヲ獸獵權ヲ有セサル者ヨリ之ヲ獵スルコトヲ得ス(他ノ場所ナレハ隨意ニ取ルコトヲ得)

第一篇 第九章

百七十條 大河又ハ海其他ノ水流ニ漁獵權ヲ有スル者ハ其水中ニ生活スル魚類ヲ己レ一人ニテ捕フルノ權ヲ有スルナリ

百七十一條 水陸ニ生活スル動物ヲ銃砲箭弓ニ因テ捕フルハ獸獵ニ屬スヘシ

百七十二條 獺海虎ヲ捕フルコトハ獸獵トス

百七十三條 水鳥ヲ捕フルコトハ獸獵トス

百七十四條 但禁制時間ノ外ニ網ヲ以テ水中ニテ捕ヘタル鳥ハ之ヲ漁獵トス

百七十五條 都テ其他ノ水中ニ生活スル動物及ヒ水陸ニ生活スル動物ヲ網、釣又ハ手ニテ水中ニテ捕ヘタルハ漁獵トス

水利ニ關スル法律

水利ハ①溜水②流ル、水③水ノ底及ヒ水ノ岸ナリトス

①溜水トハ外見上ヨリ流レサル水ヲ云フナリ(水ハ地内ノモノト雖モ必ス流動スルナリ流動セサルモノナケレハ故ニ外見上ト云フナリ)溜水トハ通常四方ヲ圍ミタル所ニアルモノニシテ其所ニテ或ハ減シ或ハ増スコアルモノナリ溜水ニ屬スル者ハ大洋内海(但ハ「ベル」川ノ底ノ廣カリテ内海トナリタルカ如キハ此限ニ在ラス)湖水井沼ノ如キヲ云フ

湖水ト内海ノ區別ハ止々其大小ニ從テ號フルナリ井トハ人間又ハ動物ノ飲料ニ供センカ爲メ人工ヲ以テ閉込ミタル溜水ヲ云フ沼トハ人工ニ因テ閉込メラレタル者ニ非ス自然ニ地中ニアル水ニ因テ成ルモノナリ

近來法律ニハ記セサレモ止々警察規則例ヘハ建築警察規則(千八百七十二一年一月廿日)「ボツダム」縣内ノ郷ノ警察規則第十九條)ニ溜水ノ一種「グレンドワセル」地中水ヲ記載セリ地中水トハ地面ヲ隔テ、地中ニアル水ヲ云フ此地中ノ水トハ新ナル検査ニ從ヘハ川ノ流通ニ從ヒ其水平ト高低ヲ等シクスルモノナリ天然力ノ窮理ノ進歩ニ從ヒ地中ノ水ハ人間ノ健康ニ關係アルコトヲ知ルニ因リ法律ヲ以テ之ヲ定メサルヲ得ス例ヘハ不潔物ニ因テ地中ノ水ニ毒スルコトアリ通常井ハ地中ノ水ナリ

「ドロツクワツセル」又「クワルワツセル」トモ云フトハ川ノ水ノ増噴水加スルカ或ハ其他ノ事由アリテ地上ニ壓シ出サル地中ノ水ナリ河水ノ減スルハ復々從テ消盡スヘキモノナリ

①流水トハ外見上ヨリシテ流動ヲ知ル水ヲ云フナリ此水ニ屬スル者ハ川小川泉堀割溝渠溢水ナリ

川及ヒ小川ハ天然ノ水流ヲ云フ(千八百六十四年三月一日及ヒ千八百八十年十二月廿日ノ「ラーベルトリユミナール」判決「ストリトルスト」氏ノ判決録第五十三卷ノ百九十三帖及ヒ第八十卷ノ百九十八帖)堀割及ヒ溝渠ハ人工ニ因テ作りタル水流ヲ云フ川小川堀割及ヒ溝渠ト溢水トノ異ル所ハ一定ノ水底ヲ有スルト有セサルニ在リ

地中ヨリ湧出ルカ又ハ空中ヨリ降りタル水ノ一定ナル底ヲ定メス且其方向ヲ定メス諸方ニ散流スル者ヲ溢水ト云フナリ(千八百七十三年十月二十一日ノ「ラーベルトリユミナール」判決ニ溢水トハ

通常ノ語ニ從ヘハ空中ヨリ降りタル水ヲ云フトアリ判決録第七十一卷ノ六帖)

千八百四十四年四月九日「ラーベルトリユミナール」全員會ノ決議ニ左ノ如ク云ヘリ普國法律全書ニ從ヘハ堀割トハ毎ニ人工ニテ作りタル水道ノミヲ云フニ非ス又河ノ水底ヲモ含ムトアレト(普國法律全書一篇第九章第二百七十一條第二篇第十五章第六十九條以下)通常ハ人工ニテ作りタル水道ヲ云フ止タ其語意義及ヒ文章ノ續キ合ヒ其他明白ナル理由ヨリシテ水底ト解スヘキ場合アルナリ

普國法律全書第一篇第八章第百條ノ溝渠及ヒ堀割ハ私有ニ屬スルモノト解ス可カラス(司法省布達全書千八百四十四年ノ百九十九

帖判決録第十卷二百四十五帖

泉ハ溜水ナルカ又ハ流レ水ナルカハ其水ノ近傍ノ地ニ滯ルキハ溜水ト成リ又水底ニ流通シテ小川ト成キハ流レ水ト成ルヘシ

○水ノ底及ヒ水ノ岸(千八百六十三年十月廿一日「ローベルトリユミナール」判決録五十一卷百五十七帖)水ノ底トハ岸ニ因テ限ラレタル水ノ流ル、所ヲ云フ水ノ岸トハ川ノ性質ニ從テ其水ノ達スル所マテヲ云フ併カラ平常水ノ達スル所ノミナラス毎年最モ水ノ増シテ達シタル所マテ云フナリ此原則ハ何レノ水ニ付キテモ適用スヘシ(ニテベルシング「氏」水法及ヒ警察書第十六條)但水底トハ水ノ達シタル所ノ体面ノミヲ云フニ非ス最増シタル水ノ達シタル側面ヲモ包括セリ水岸トハ水底ノ境ヲ云フナリ最高ノ水ノ達シタル所

ノ境ヲ越ユ可カラス

海岸トハ滿潮ノ達スル所マテヲ云フ(千八百五十二年九月三日及ヒ千八百六十三年十月廿二日「ローベルトリユミナール」判決)以上掲ケタル所ノ區別ハ止タ實際ニ付テ定メタルモノナリ故ニ水ニ關スル法律ヲ發スルモ其區別ニ從テ自カラ異ラサルヲ得ス

○(ニ付キ普國法律全書ハ圖マレタル水ト圍マレサル水トヲ區別セリ(第一篇第九章第七十六條第八十條)湖、内海、池ニ於ケルカ如ク一地面ノ境ヲ越エテ出サル水ヲ圍マレタル水ト云フ然レモ此字意ハ適當ナラス何トナレハ大ナル内海ノ如キハ數箇ノ地面ニ因テ圍マル、コアレハナリ元來圍マレタル水ト圍マレサル水トノ區別ハ溜水ト流水トノ區別ニ符合スヘキモノナリ

ノイハウス氏説明上

帖判決録第十卷二百四十五帖

泉ハ溜水ナルカ又ハ流レ水ナルカハ其水ノ近傍ノ地ニ滯ルルハ溜水ト成リ又水底ニ流通シテ小川ト成ルハ流レ水ト成ルヘシ

②水ノ底及ヒ水ノ岸(千八百六十三年十月廿一日「ローベルトリユミナール」判決録五十一卷百五十七帖)水ノ底トハ岸ニ因テ限ラレタル水ノ流ル、所ヲ云フ水ノ岸トハ川ノ性質ニ從テ其水ノ達スル所マテヲ云フ併カラ平常水ノ達スル所ノミナラス毎年最モ水ノ増シテ達シタル所マテ云フナリ此原則ハ何レノ水ニ付キテモ適用スヘシ(「テベルシング」氏ノ水法及ヒ警察書第十六條)但水底トハ水ノ達シタル所ノ体面ノミヲ云フニ非ス最増シタル水ノ達シタル側面ヲモ包括セリ水岸トハ水底ノ境ヲ云フナリ最高ノ水ノ達シタル所

ノ境ヲ越ユ可カラス

海岸トハ滿潮ノ達スル所マテヲ云フ(千八百五十二年九月三日及ヒ千八百六十三年十月廿二日「ローベルトリユミナール」判決)以上掲ケタル所ノ區別ハ止タ實際ニ付テ定メタルモノナリ故ニ水ニ關スル法律ヲ發スルモ其區別ニ從テ自カラ異ラサルヲ得ス

③(ハ)ニ付キ普國法律全書ハ圍マレタル水ト圍マレサル水トヲ區別セリ(第一篇第九章第百七十六條第百八十條)湖、内海、池ニ於ケルカ如ク一地面ノ境ヲ越エテ出サル水ヲ圍マレタル水ト云フ然レモ此字意ハ適當ナラス何トナレハ大ナル内海ノ如キハ數箇ノ地面ニ因テ圍マル、コアレハナリ元來圍マレタル水ト圍マレサル水トノ區別ハ溜水ト流水トノ區別ニ符合スヘキモノナリ

千八百五十四年五月三十日ノ漁獵規則ノ圖マレタル水ニ付テハ其規則第四條ヲ參看スヘシ(普國法律全書百九十七帖)

水ニ關スル事柄ハ左ノ章ニ分テ之ヲ説明セン

- 一篇水ノ種類ニ關シ各別ノ通則
- 二篇水ノ自然ノ經過
- 三篇人工ニテ水ヲ落ス事
- 四篇水ノ堰ヲ作ル事
- 五篇人工ニテ水ヲ漑ク事
- 六篇水ヲ落シ水ヲ漑ク爲メ組合ヲ作ル事
- 七篇水ニ對スル防護
- 一篇水ノ種類ニ關シ各別ノ通則

①大洋ハ一般ノ共有ニシテ政府又ハ一己私人ニ屬セス其關係ハ万国

ニ延ヒ方國公法ヲ以テ定ムヘキモノナリ

大洋ハ一般ノ共有物ニシテ何人ノ所有ニモ屬セサル故

一 大洋中ニ生シタル島ハ何人ニテモ之ヲ有スルヲ得

二 大洋ニ於ケル獸獵ハ何人ニテモ之ヲ爲スヲ得(千八百六十

六年十一月廿八日「ヤーベルトリミニナール」刑事局ノ判決ヲツ

ペンホフ氏刑事判決録第七卷六百六十七帖)

三 大洋ニテ一人ニテ專ラ漁獵ヲ爲スヲハ亦普國法律全書ニ從フ

モ之ヲ爲スヲ得ス(千八百六十五年二月廿日ノ「ヤーベルトリ

ミニナール」判決判決録五十三卷十二帖)

②公ケノ水ト公ケニ非サル水トノ區別ハ甚タ肝要ナリト雖モ法律ニ

ノイハッス氏説明上

明カニ之ヲ掲ケス又其種類ヲ混同セリ然レモ種ヤノ法律ヲ蒐集スルハ自カラ其間ニ區別アルコトヲ知ルナリ普國法律全書第二篇第十四章第二十一條ニ從ヘハ往還軍隊通行路船ヲ漕クコトヲ得ル自然ノ川、海岸、港埠ハ政府ノ共有物ナリ

此規則ニ從ヘハ船ヲ漕クコトヲ得ル自然ノ川及ヒ港ハ公ケノ水ニシテ其他ノ水ハ公ケニ非スト云フヘシ

○普國法律全書第二篇十四章第二十一條ニ謂フ所ノ政府ノ共有物トハ如何ナル物ヲ云フカ千八百七十年十一月廿四日ノ「ラーベルト」リユミナール判決(判決錄八十一卷七十三帖)ニ左ノ如ク云リ

普國法律全書ニ從ヘハ政府ノ所有ニ特別ノ所有ト共有ノ所有トアリ(二篇十四章第一條第十一條第二十二條以下)特別所有ニ屬スル

モノハ山林田畑(第十一條以下)ナリ共有ノ所有ニ屬スルモノハ往還軍隊ノ通行路船ヲ漕クコトヲ得ル自然ノ川海岸港埠ナリ(第二十一條及ヒ第二篇十五章第一句第二句)此所有物ノ使用(第一篇第二章第一百十條)ヲ下等ノ權利ト云(第二篇第十四章第二十四條)船ヲ漕クコトヲ得ル自然ノ川(第二篇第十五章第三十八條)ニ付テハ亦左ノ如ク云ヘリ

船ヲ漕クコトヲ得ル自然ノ川ノ使用ハ政府下等ノ權利ニ屬ス政府ノ特別所有ノ使用ハ普國法律全書一篇十四章第十一條ニ從ヘハ止タ國王ノミニ歸セリ然レモ政府ノ共有所有ヲ政府ニテ(レガール)トシテ使用セサレハ國民タル者ハ何人ニテモ之カ爲メ設ケタル規則ニ從テ使用スルコトヲ得例ヘハ第二篇十五章第四十四條ノ公ケノ川

及ヒ第四十七條ノ水ヲ汲ミ又ハ浴水又ハ飲料トシテ水ヲ用フルコ
及ヒ第五十條ノ船ヲ航シ又ハ渡船ヲ設ケ荷物上下器械ヲ設ケ得ル
ノ類

故ニ船ヲ漕クコトヲ得ルカ爲メニ下等權利トシテ使用スヘキ水ハ公
ケノ性質ヲ有スレハ政府ノ特別ノ所用ニ屬セス則チ共有ノ水ニシ
テ政府ノ水ニ非ス

其他千八百七十三年一月十七日ノ「ラーベルトリユミナール」判決
「ストリトルスト」此判決録八十七卷三百二十帖ニ左ノ如ク云ヘリ
公ケノ水ハ政府ノ共有ニ屬シ特別ノ所有ニ非ス止タ其水ノ使用ハ
政府ノ所有ト看做スヲ得公ケノ水ノ所有者ハ政府ニ非ス其水ハ共
有物ニシテ政府ノ物ニ非ス又千八百五十九年十一月十五日「ラー

ベルトリユミナール」判決（「ストリトルスト」氏判決録三十六卷十帖）
公ケノ水トハ大洋又ハ船ヲ航スルコトヲ得ル自然ノ川ノ如キ都テ衆
人相共同シテ使用スルコトヲ得ル水ヲ云フナリ一人ニテ專ラ使用ス
ルカ又ハ他人ヲシテ使用セシムルカ如キ水ハ私ニ屬スル水ナリ
又千八百五十五年三月六日ノ「ラーベルトリユミナール」判決（判決
録十五卷三百六十帖）公ケノ水トハ普國法律全書ノ二篇十四章二
十一條ニ從ヘハ公ケノ水ハ政府ノ共有ニ屬スレハ一人ニテ專ラ所
有スルコトヲ得ス故ニ專ハラ一人ニ屬スル獸獵權ノ如キハ公ケノ水
ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ス以上掲クル所ニ因テ考フレハ公ケノ水ハ
政府ノ共有物ニシテ「レガール」トセサレハ衆人之ヲ使用スルコトヲ
得ルナリ就中船ヲ漕ク爲メニ使用スルコトヲ得ルナリ（第四十四條

第四十七條第五十條)然レモ政府ハ公ケノ水ヲ保護スルカ爲メニ其水ニ付キ他人ニ讓與スルコト能ハサル特權(警察ノコト)ヲ有シ或ハ其水ノ使用ハ下等權利トシテ他人ニ讓渡スコトヲ得ルナリ(一篇十五章三十八條二篇十四章二十四條)

②政府ノ共有ノ所有權ハ水底ニ及ハス水底ハ川岸所有者ニ屬スルナリ然レモ其水底ヲ使用スル權ハ水ノ掩蔽シタル間ハ之ヲ行フコトヲ得ス(千八百五十九年十一月二日「ヤーベルトリユミナール」判決判決錄四十二卷五十四帖及ヒ千八百六十一年一月廿九日ノ判決四十卷百五十六帖及ヒ千八百七十年十一月廿四日ノ判決八十一卷七十三帖)

③川岸ハ直チニ之ニ接スル土地所有者ニ屬スルナリ(普國法律全書二篇十五章五十五條)然ナカラ川岸ハ所有者ヨリ隨意ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス船ヲ漕ク爲メニ定メタル制限ヲ受クヘシ(一篇九章二百三十七條ヨリ二百四十一條マテ二篇十五章五十七條ヨリ六十二條マテ及ヒ千八百五十六年五月廿二日「ヤーベルトリユミナール」判決判決錄二十一卷二百七帖)且川岸ハ其所有者ヨリ之ヲ保存スヘキ義務アリ(二篇十五章六十三條)但其義務ハ一般ニ船ヲ航スル者ノ爲メニ非ス自己ノ爲メ及ヒ鄰ノ所有者ノ爲メニ在ルナリ(二篇九章二百三十九條)

④一二ニ掲ケタル事柄ヨリシテ觀レハ公ケノ川ニ生シタル島ハ「ケーニマルクブランデンブリヒ」ニ於テハ政府ノ所有ニ屬セリ(千八百七十年十一月廿四日「ヤーベルトリユミナール」判決判決錄八

十一卷七十三帖)州規則ニ因テ政府ニ屬スヘキニ非サレハ最近ノ川岸所有者ヨリシテ標記ヲ爲シテ之ヲ所有スル權アリ(一篇九章二百二十四條以下二篇十五章六十七條)川岸ノ埋マリタル所ハ標記ヲ付ケスシテ自カラ川岸所有者ニ屬スヘシ(二篇十五章五十六條一篇九章二百二十五條及ヒ二百三十二條以下)又水路ノ變シタル岸舊ノ水底モ亦川岸所有者ニ屬スヘシ(二篇十五章六十八條一篇九章二百七十條)但水底ハ二篇十五章六十九條ヨリ七十二條ニ從テ之ヲ所有スルコトヲ得ルナリ

二篇十五章七十條及ヒ七十一條ノ場合ニ於テハ政府ハ其流ヲ變シタル水底ノ所有者ニ非ス止タ之ヲ所有スヘキ權アルノミ(千八百七十年十一月二十四日「ヤーベルトリユミナール」判決八十一卷七

十三帖)

⑤公ノ川ニ於テ人工ニ因リ埋リタル岸例ヘハ自然ノ水流ニ因テ生シタルニ非ス人工ニ因テ水流ヲ改メタルニ因リ生シタル埋リ地ヲ云フナリ其埋リ地ハ自然川岸所有者ニ屬スルニ非ス其所有者ヨリ其標記ヲ設クルニ因リ所有ト爲ルモノナリ若シ川岸所有者ヨリ其埋リ地ヲ所有セントスルニハ其地ノ大小ニ從テ水流ヲ改變シタル費用及ヒ賃料ヲ差出スヘシ(一篇九章二百六十三條二百六十四條)如此埋リ地ハ標記ヲ設クルニ因テ之ヲ得クヘキモノナレハ豫シメ其費用ヲ出スニ及ハス然レモ水流ヲ改メ及ヒ費用ヲ出シタル者ハ(通常ハ政府ナリ)現ニ其増地ヲ有シテ川岸所有者ヨリ其費用ノ償却ヲ爲スマテハ之ヲ差押フルノ權アリ(千八百五十七年十一月九

日「ラーベルトリユミナール」判決判決録三十六卷七十一帖及ヒ千八百六十八年五月五日ノ判決判決録六十卷四十四帖)

⑥公ケノ川ニ於ケル漁獵ハ政府ノ使用權ニ屬スルモノナリ(二篇十五章七十三條)

⑦二篇十五章七十九條ニ從ヘハ政府ハ船ヲ航スルコトヲ得ル川ノ使用權ヲ有スレハ航船ニ便利ナラシムル仕掛ケヲ設クヘキ義務アリ其義務ハ止タ船ヲ航スル爲メニ必要ナル者ニシテ其他ノ爲メニハ義務ヲ負ハス波除其他水流ヲ善クスル爲メニ作りタル堤防ハ政府ノ所有物ニシテ川岸所有者ヨリシテ之ヲ所有スルコトヲ得ス

⑧水上警察航船警察ハ地方警察ノ事務ニ非ス其事務ハ國內警察ニテ之ヲ掌ルヘシ

⑨自然ニ船ヲ航スルコトヲ得ル川ハ止タ船ヲ航スルコトヲ得ル所ヨリシテ二篇十五章三十九條四十條ニ云フ所ノ公ケノ川ト看做スヘシ(千八百六十七年六月三日ノ「ラーベルトリユミナール」判決及ヒ司法省布達全書千八百六十七年三百二十二帖)船ヲ航スルコトヲ得サル所ハ公ケノ川ヨリシテ導キタル堀割ト同シク公ケノ川ト看做ス可カラス(千八百六十一年二月廿八日ノ内務省指令内務布達全書七十三帖)是レ私有ノ川ノ性質ヲ有スルモノナリ然レモ其川ノ傍又ハ其川ヲ廣メテ船ヲ航スヘキ爲メニ作りタル堀川ハ公ノ川ノ性質ヲ有スヘシ(千八百五十七年六月八日「ラーベルトリユミナール」判決判決録二十五卷百四十二帖)

⑩川ノ公ケナルカ否ノ判決ハ專ラ行政官署ニモ又ハ裁判所ニモ委

任セス其判決ハ甚タ困難ナルモノニシテ「ヤーベルトリユミナール」及ヒ其他ノ裁判所ノ判決ニ因ルモ權限爭裁判所ノ判決ニ因ルモ其判決ノ原則トナルヘキモノナシ

千八百三十一年十二月四日ノ國王ノ特權ト出納局ノ權利トノ間ノ區別ヲ定ムル爲メノ布告(法律全書二百五十五帖)其布告及ヒ「ニールヂング」氏ノ水法及ヒ警察書十八條ニ從ヘハ政府ヨリ其特權ニ因テ發シタル命令ニ對シテハ例ヘハ政府カ二篇十五章七十七條及ヒ七十九條ニ定メタル特權ニ因テ航船ノ爲メニ波除又ハ堤防等ヲ設ケタル事ハ其川ノ公ケニ非サルノ訴訟ヲ裁判所ニ持出ス「ヲ得ス又其命令ニ對シテハ其川ノ所有者ニテ得ヘキ利益ノ損害ノ償ヲ求ムル」ヲ得ス損害ノ償ハ止タ政府ノ命令ニ因テ關係者ノ私

ノ權ヲ害シタル事ニ限り之ヲ求ムル「ヲ得ルナリ(千八百四十九年三月廿九日千八百六十九年十月九日千八百五十七年十月廿四日千八百五十八年六月廿三日ノ權限爭裁判所ノ判決司法省布達全書千八百四十九年ノ二百六十五帖千八百七十年ノ十七帖千八百五十七年ノ百七十五帖千八百五十八年三百四十七帖)然レ「川ノ公ケナルヤノ爭ヒハ出納局ニ對シ訴訟ヲ爲スコ「ヲ得則政府ノ權利ニ屬スル使用權及ヒ其義務ニ付キ訴フル「ヲ得ルナリ例ヘハ政府又ハ私人ヨリ川ヲ浚ヘ又ハ保存スヘキモノナルヤ否ノ訴ヲ爲スコ「ヲ得ルナリ(千八百五十六年四月五日ノ權限爭裁判所判決司法省布達全書百七十八帖)

①港埠海岸ニ付テハ二篇十五章八十二條ヨリ八十七條マテ千八百

七十四年五月十七日ノ獨逸難船規則(獨逸法律全書七十三條)ニ付テハ宰相ヨリ千八百七十五年四月廿四日ニ公告シタル上院ノ指令アリ(中央紙千八百七十五年ノ七百五十帖)

①公ケニ非サル水トハ港ニ非サル水カ又ハ自然ニ船ヲ航スルコト能ハサル川ノ水ヲ云フナリ其性質ハ種々アルニ因リ法律モ亦種々アリ一般ニ通スル性質ハ止タ公ケニ非サル所ノミナリ又公ケノ水ニ對シテ之ヲ私有ノ水ト號クルコトアリ其内ニテ民法ニ言フ所ノ所有ヲ爲シ得ルモノ例ヘハ井池等ノ溜水ハ現ニ一己私人ノ所有ニ屬ス然レモ流動スル水ニ付テハ其流動ノ性質ヨリ已ニ民法上ノ所有ヲ爲スコトヲ得ス止タ水ヲ使用スル權ハ一己私人ニテ自由ニ之ヲ行フコトヲ得之ニ由テ之ヲ觀レハ公ケニ非サル水ノ性質ハ其類ノ異ナル

ニ從ヒ法律モ種々ニ異ルヘキナリ流水ノ使用權ニ付テハ間々其經界ヲ定ムルニ困難ナルコトアリ例ヘハ如何ナル處分ハ之ヲ許シ如何ナル所分ハ之ヲ禁スヘキヤハ殆ト之ヲ定ムルコト難シ(一篇八章二十六條及ヒ二十七條緒言九十四條)

千八百五十二年五月四日ニ「ローベルトリユミナール」ニテ左ノ原則ヲ定メリ(判決錄五卷二百八十二帖)所有者ノ所業ニ因リ自然ニ其所有權ノ經界ヲ越ヘテ生シタル事ニ付キ其責任ヲ負フニ及ハサル場合アリ然レモ物質ヲ以テ他人ノ土地ノ上カ又ハ地内ニ損害ヲ加ヘタル時ハ其責ヲ負フヘシ此原則ハ專ラ井戸ニ適用スヘキモノナリ土地所有者ハ其土地ニ於テ井戸ヲ堀ルコトハ隨意タルヘシ假令井戸ヲ堀ルカ爲メ隣家ノ井戸ノ水ヲ奪ヒタルモ其權アリ(第一篇

八章百三十條百三十一條)併ナカラ其土地ニ仕掛ヲ設ケ隣家ノ井戸ヲ汚穢シ又ハ用フ可カラサルニ至ラシムルヲ得ス(一篇八章百二十九條)

一 民法上ノ所有權ハ止々湖内海井戸等ノ溜水ニ付キアルモノニシテ一篇九章第七十六條ニ從ヘハ其所有者ハ則チ岸ノ所有者ナリ(一篇九章二百六十八條)若シ岸ノ所有者ノ數人アルキハ其者ノ共通所有トスヘシ而テ其所有權ハ其他ノ者ノ所有權ニ等シク之ヲ使用スルヲ得且他人ヲシテ使用セシメサルヲ得ルナリ(一篇九章百七十六條一篇八章一條九條十二條二十五條二十六條一篇九章百七十七條二百六十七條二百六十八條)又其所有者ハ他人ノ土地ヲ乾燥スヘキ場合ニ於ケルモ全ク其土地内ノ水ヲ

落スヲ得(千八百五十二年六月七日ノローベルトリユミナル判決判決錄五卷二百八十二條)如此所有者ノ所分ニ對シテハ別ニ契約アリテ其水ヲ保存スヘキ義務アルニ非サレハ他人ヨリ訴フルヲ得ス

二 溜水ニ付テ言ヒタルハ亦地中ニ止マル水ニモ適用スヘシ此水ニ付キ其土地所有者ノ使用權ヲ制限スル規則ナシ故ニ所有者ハ隣家ノ井戸ノ水ヲ竭スヘキト雖モ其井戸ヲ作ルヲ得(一篇八章百三十條)

又一ニ云ヒタルハ溢水ニモ適用スヘシ其水ノ權利ニ付キ(所有權ナルヤ又ハ現ニ有スル權ナルヤ)疑ハシキ場合ト雖モ其土地所有者ハ其地上ニ溢レ出タル水ヲ隨意ニ使用スル權アリ故ニ

所有者ハ其水ノ流通ヲ妨クル權アリ下流ノ土地所有者ハ其水ニ付テハ毫モ使用權ヲ有セス

三 溝堀割ニハ其性質種々ノ異アリ或ハ自然ノ水底ナキ溢レ水ヲ落ス爲メニ設クルコアリ或ハ地上ニ集リタル水ヲ一定ノ便利ナル流通ヲ爲サシムル爲メニ設クルコアリ或ハ一定ノ目的ニ水ヲ導ク爲メニ設クルコアリ之カ爲メ落シ水ノ溝ト水道ノ溝トノ二種ニ分レリ

落水ノ溝ハ一箇ノ土地カ又ハ數箇ノ土地ヨリ水ヲ落ス用ニ立テ水道ノ渠ハ或ル目的ニ或ル場所ニ水ヲ引ク爲メニ設クルナリ例^{ロウケルライツンクステレーメン}ヘハ水車ノ水勢ヲ得ル爲メ又ハ灌水ノ爲メナルカ如シ落水ノ溝ニ二種アリ一種ハ專ラ水ニ自然ノ流通ヲ與フル爲メナ

リ一種ハ人工ヲ以テ便利ナル流通ヲ與フル爲メナリ此三種ノ溝ニ關スル法律モ亦各異ナリ

一篇八章百條ニハ水ヲ落ス溝及ヒ堀割ハ則水ニ自然ノ流通ヲ與フルモノト記セリ其溝及ヒ堀割ハ別ニ法律ナケレハ之ニ接スル土地所有者ニ屬シ其所有者數人アルハ其土地ニ接スル部分ヲ各所有ス(一篇八章百八十八條一篇十七章二百六十六條)此所有者ハ第百條ニ從ヘハ其溝及ヒ堀割ヲ保存シテ水ノ流通ヲ爲サシムル義務アリ(千八百六十年二月廿一日「ヤーベルトリユミナール」判決判決錄四十三卷四十二帖千八百六十五年六月二十七日ノ判決判決錄五十九卷二百七十一帖)此義務ハ千八百六十一年十二月二十日ノ「ヤーベルトリユミナール」判決ニ(判決錄四十四

卷百三十七帖)云ヘル如ク其所有者ノ爲メノミナラス他ノ土地所有者又ハ製造場所有者ノ爲メニモ其義務アルモノナリ然レモ其溝及ヒ堀割ノ止タ一箇ノ土地ノ爲メニ用フヘキモノニシテ其土地所有者カ)同溝又ハ堀割ノ所有者ナルモ其義務ナシ何トナレハ土地所有者ノ外ニハ他ニ之ヲ使用スル者ナケレハナリ一篇八章百條ニ云フ所ノ自然ノ流通ト看做スニハ幾許ナル年限ヲ經ルコノ必用ナルカ又ハ如何ナル流通ヲ自然ノ流通ト看做スヘキカハ一般ニ之ヲ定ムルヲ得ス止タ實地ニ付テ之ヲ定ムヘシ(千八百六十三年十月十五日「ローベルトリユミナール」判決判例録五十三卷二十九帖)

以上ニ云ヒタルコ並ニ流通スル水ノ性質ヨリシテ溝及ヒ堀割ノ

所有權ニ付キ左ノ制限アルモノナリ

①所有者ハ溝及ヒ堀割ノ用則水ノ流通ヲ妨クヘキ使用ヲ爲スコカラス(一篇八章二十六條二十七條)

②所有者ハ其水ヲ濁リシテ用フ能ハサラシメ其他ノ所有者ヲ害スコカラス(一篇八章二十七條)

③然ナカラ所有者ハ他人ノ使用ヲ妨クルト否トヲ問ハス其水ヲ自己ノ爲メニ使用スルコトヲ得然レモ別段ノ契約等アリテ他人ノ權利ヲ害スコカラサルモ此限ニ在ラス(一篇六章三十六條緒言九十四條)

④就中所有者ハ其自己ノ所有ニ屬スル溝ノ水ヲ其土地ニ導ク權アリ而シテ之ヲ再ヒ溝ニ落スヘキ義務ナシ但別段ノ契約等アリ

ノイハウス氏說明上

テ他人ノ權利ヲ害ス可カラサルハ此限ニ在ラス
本項ノ格外ナル者ハ左ノ如シ

一「シーゲン」郡ニ於テハ千八百四十六年十月二十八日ノ牧畜規則第一條第二條ニ從ヒ其格外ナリ（其水ヲ自由ニ土地ニ導クヲ得サルコナリ）（普國法律全書四百八十五帖）二普國法律全書ヲ發スル前ニ成立タル水車ノ爲メニハ其水力ニ必用ナル水ヲ引クコトヲ得ス（二篇十五章二百四十六帖千八百五十年一月十一日「ラーペルトリユミナール」判決判決録十九卷二百六十四帖）

④地中ノ水道（例ヘハ水管ヲ以テ水道ヲ作ルモノ）ハ溝又ハ掘割ト同一ノ用ニ供スヘキモノハ之レト同一ノ規則ニ從フヘシ

⑤人工ヲ以テ水流ヲ便利ニセンカ爲メ設ケタル溝掘割ノ關係ハ

之ヲ作りタル片ノ契約ニ從テ之ヲ定ムヘシ其契約ニハ何人カ所有者ナルカ又ハ如何ナル保存スヘキ義務ヲ有スルカヲ定ムヘシ

①前項ニ記シタル事ハ水道ノ渠ニモ適用スヘシ

ワシントンケンタッキー

②都テ溝ノ所有權③④⑤其保存スヘキ義務及ヒ使用權ニ關スル爭ハ止々通常裁判所ニ於テ判決スヘシ然レモ其溝ノ草ヲ刈リ又ハ之ヲ浚フルコトニ付テハ水ノ自然ノ經過ノ部ニ就テ見ルヘシ

四 私有ノ川トハ自然ニ成リタル川ニシテ船ヲ漕クコト能ハサルモノヲ云フナリ（公ケニ非サル川又ハ小川ヲ云フナリ）

①法律ニ於テハ私有ノ川ノ所有權ヲ認メタリ（二編十五章四十一條千八百四十三年二月廿八日私有ノ川ヲ使用スル規則普國法律全書四十一帖）

其所有權トハ如何ナルモノヲ指スカ千八百六十八年十一月廿四日「ラーヘルトリユミナール」判決判決録七十五卷十五帖ニ左ノ如ク云ヘリ

私有ノ川ノ水トハ同一ノ物質トシテハ永續シテ所有スルコトヲ得サレモ其水流ハ時々變スルニ拘ハラズ耕作及ヒ製造ニ用フルカヲ有スル同一物件トシテ所有スルコトヲ得ルモシナリ其所有權ハ川岸所有者ニアル者ニシテ法律ニ於テモ之ヲ認メ且其範圍ヲ定メタリ然レモ地方ノ規則或ハ契約ヲ結ヒ其範圍ヲ廣クスルコトヲ得セシメタリ

水流ノ所有權トハ他ノ所有權ノ如ク制限ナキモノニ非ス併ナカラ其所有權ノ本体ニ付テハ異ルコトナシ則契約或ハ現ニ數年間所

持スルコトニ因テ得ルコトヲ爲シ又現ニ所有スル者ヨリ訴訟ヲ起スコトヲ得ルカ如シ

①私有ノ川ノ所有權ハ別ニ所有者ナケレハ(別ニ所有者有ヤ無ヤハ實地ニ付テ之ヲ定ムヘシ)川岸所有者ニ屬スヘシ(千八百五十七年六月八日「ラーベルトリユミナール」判決判決録二十五卷百四十二帖)其所有權ハ其川ニ接スル土地ノ大小ニ從テ之ヲ定ムヘシ如此川岸所有ニ所有權ノ屬スル所以ハ法律ニ於テ川岸所有者ハ其所有權ヲ有セサレハ能ハサル使用權ヲ有スルト其川ヲ浚フヘキ義務アルコトヲ定メタルニ因ルナリ(千八百四十三年二月二十八日ノ私有ノ川使用規則一條七條十三條以下)

私有ノ川ノ岸ハ(二編十五章五十五條ノ例ニ從ヒ)亦其川ニ接ス

ル土地所有者ニ屬スルナリ

①私有ノ川ノ所有權ハ別ニ契約等ナキカ又ハ州規則ニ定メナケレハ必シモ水底及ヒ川岸ニ及フモノニ非ス然レモ水底ハ假令其川ノ川岸所有者ニ屬セサルモト雖モ川岸所有者ニ屬スルナリ故ニ川岸所有者ハ私有ノ川ニ生シタル島ニ標記ヲ立テ、之ヲ所有スルコト得(一篇九章二百四十五帖)及ヒ其川ノ埋マリ地及ヒ水流ヲ變シタル水底ハ標記ヲ立テス自然ニ川岸所有者ニ屬スルナリ(一篇九章二百二十五條二百七十條)

②私有ノ川ノ所有權ハ健康耕作ノ爲メニ甚タ制限ヲ受クル者ナリ故ニ私有川ノ所有權ハナキモノニシテ止タ使用權ノミアルモノナリト言フ者多シ

③私有川ノ所有權ノ制限ハ左ノ如シ

一 別ニ仕掛ヲ設ケス止タ水ヲ飲ミ及ヒ汲ミ又ハ動物ニ水ヲ飲シメタリ(實際ニ於テハ之ニ泳クコトヲ得)スルコトハ所有者ヲ害セスシテ其水ニ達スルコトヲ得レハ何人ニテモ之ヲ爲スコトヲ得(千八百四十三年二月二十八日法律第一條二條)

二 川ノ所有者ニ非サル者ニテ水ヲ前項ニ掲ケタルヨリハ他ノ目的ニ使用セントスルニハ就中其川ヨリ水ヲ引カントスルニハ其使用セントスル者カ必ス川岸ヲ所持スル者タルヘク且ツ自己ノ土地ヲ越エテ他人ノ土地ニ導キ又ハ溢出ス可カラス(千八百四十三年二月廿八日ノ法律十三條)

三 川ノ水ヲ溜ラシ又ハ水底ヲ狹クスルコトハ其川ノ所有者タリ

トモ之ヲ爲スコヲ得ス又警察官ヨリシテ之ヲ禁スルコヲ得
 (千八百四十三年二月二十八日ノ法律四條ヨリ六條マテ)

四 私有ノ川ノ所有者ハ國王ノ裁定ニ因リ一般ニ材木ヲ浮フル
 コヲ許スヘキ義務ヲ負ハサル、コアリ(筏ニ非ス一本ツ、流
 カシテ山國ヨリ持出スコ)

(千八百四十三年二月廿八日ノ法律八條ヨリ十一條マテ)

五 州規則地方規則又ハ慣習ニ因テ私有ノ川ニ一般ニ筏ヲ流シ
 得ル所ニ於テハ卿ノ許可ナケレハ斯クニ筏料ヲ取り又ハ筏料
 ヲ増スコヲ得ス(千八百四十三年二月廿八日ノ法律十二條)

六 川ノ所有者ハ警察官署ヨリシテ命シタル所ハ自然ノ水ノ流
 通ヲ爲メ泥浚ヲ爲スヘシ但所有者ニテ浚フヘキ義務アル所ニ

限ル(千八百四十三年二月廿八日ノ法律第七條)

七 私有ノ川ヲ使用スルコニ付テノ争ハ通常裁判所ニテ裁判ス
 ヘシ(千八百四十三年二月廿八日ノ法律第二條ヨリ第七條マ
 テノ場合ニ於テハ警察官署ニテ之ヲ裁定スヘシ)

八 人工ヲ以テ船ヲ航スルコヲ得セシメタル私有ノ川ハ之カ爲
 メ船ヲ航スルコヲ得ル部分ハ公ケノ川ト爲リ航スルコ能ハサ
 ル部分ハ私有ノ性質ヲ失ハス(千八百四十九年十二月十三日
 「ラーベルトリユミナル」判決判決録十八卷五百二十九帖)然
 レモ船ヲ航スルコヲ得セシメタル部分ト雖モ其所有權ノ船ヲ
 航スルコニ妨害ナキモノハ仍ホ其所有者ニ止ルヘシ(二篇十
 五章四十條四十一條)

第二篇水ノ自然ノ經過

一 水ノ妨障セラレスシテ經過スルコトハ其水路ノ自然ニ成リタルト
人工ニ因テ成シタルトニ拘ハラヌ耕作營業健康ノ爲メニハ至テ緊
要ナル者トス故ニ法律ニ於テハ經過ノ妨ケラレサル様ニ保護ヲ爲
シ之ヲ水ノ自然ノ經過ノ權利ト爲セリ

水ノ自然ノ經過トハ土地ノ位地ニ(自然ニ土地ノ低クナリテ流ル
、コト)從テ水ノ流ル、コトヲ云フナリ而シテ其土地ハ自然ニ成ルモ
人工ニテ成ルモ又其水ハ溢レ水ナルモ又ハ溝河掘割ニ流カル、水
ナルモ又ハ空中ヨリ降タル水(例ハ雨雪等)ナルモ其差別ナシ
水ノ經過トハ水ヲ落ストトハ異ナリテ已ニ自然ニ水ノ流ル、モノ
ニ非サレハ水ノ經過ト云ハス(又ハ已ニ流ル、水ノ妨ケラレタル

ヲ舊ノ如ク流通セシムルコトヲ云フナリ)水ヲ落ストトハ未タ水流ナ
キ所ニ新ニ水路ヲ作ルコトヲ云フ

水ノ經過ノ意義ニ因レハ止タ水ノ流ル、ヲ云フモノニシテ水ヲ使
用スル爲メニ此土地ヨリ彼ノ土地ニ水ヲ引クコトヲ含マス

故ニ其水ノ經過ノ權利トハ其經過ノ妨ケラレタル所生スヘキ損害
ヲ防ク爲メナルモノニシテ水ヲ導キテ其土地ニ利益ヲ得ル爲メナ
ルモノニ非ス畢竟水ノ經過ノ權利ハ高キ土地ニ對シ低キ土地ニ付
キタル自然ノ義務アルニ因テ存スルモノナリ

之ニ因テ見レハ水ノ經過ノ權利ハ土地ノ位地ニ從テ水ノ流ル、コ
トヲ求ムル權ヲ云フナリ又其權利ハ水ノ異ナルニ從テ自カラ異レリ

二 溢水ノ經過ニ付テハ普國法律全書第一篇第八章第百二條ヨリ第

ノイハウス氏説明上

百五條マテニ論セリ

一 第二百二條ニ從ヘハ土地所有者ハ土地ニ溢レ來ル水ヲ防止スルノ權アリ

土地所有者ニ於テ溢水ヲ防止スルトモ又ハ其水ヲ其土地ニ溢出サスルモ隨意タルヘシ故ニ高キ土地所有者ハ是迄低キ土地所有者ニテ溢水ヲ防止セサルニ因リ(防止シタルキ)復タ其土地ニ流スヘキコトヲ求ル權ナシ低キ土地ニ水ヲ流サンコトヲ求ルニハ低キ土地所有者ノ防止ヲ拒ム權ヲ有スヘシ(千八百四十四年十月廿三日「ラーベルトリユミナール」判決司法省布達全書千八百五十四年百二帖及千八百五十六年十月三十日ノ判決「ストリートアルスト氏判決錄二十二卷二百七十二帖)防止ヲ拒ム權トハ他人

ニテ爲ス可カラサルコトヲ求ル權ヲ云フナリ(第一篇七章第八十六條)

二 高キ土地ノ所有者ハ低キ土地ニ溢レ出ル水ヲ止ムヘキ義務ヲ有セス

三 低キ土地所有者ニテ溢水ヲ防止スル權ハ高キ土地所有者ニテ其土地ニ仕掛ヲ設クルモ水ヲ流スト能ハス(第二百三條)且凡テノ低キ土地所有者ニテ土地ノ位地ニ因リ其土地ニ溢レ來ル水ヲ又低キ所ニ流スト能ハサルキハ其防止ノ權ヲ行フコト能ハス(第二百四條)止タ前ニ掲ケタル要件ノ一ノミニテハ高キ土地所有者ハ水ノ經過ヲ求ムルコトヲ得ス但其高キ土地所有者ニテ其水ヲ流スニ因テ得ヘキ利益ト低キ土地所有者ニテ其水ヲ溢レ出サシムル

ノイハウス氏説明上

「一ニ因テ受クヘキ損害トヲ比較シテ其利益ノ巨大ナルキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ低キ土地所有者ハ高キ土地所有者ヨリ損害償金ヲ受ケテ其水ヲ溢レ出サシムヘキ義務アリ（一篇第八章百五條）

四 建築物ノアル土地所有者ハ低キ土地所有者ニ對シ其土地ニ溢水ヲ流サセン「ヲ求ムル權ナシ又高キ土地所有者ニ對シ其土地ヨリ溢レ來ル水ヲ流スヘキ義務ナシ（千八百五十九年二月十日「ローベルトリユミナール」判決判決録第四十卷三十三條及ヒ千八百六十年七月七日ノ判決判決録第三十七卷三百三十二帖千八百六十一年一月三日判決判決録四十卷百十六帖）是等ノ判決第一篇第八章百二條ヨリ百四條ニ掲ケタル土地ハ耕作ニ用フヘキ

者ト看做シテ判決セリ建築物ノアル土地所有者ハ其建築物ニ因テ溢水ノ自然ノ流通ヲ變セサル間ハ他人ノ土地ニ溢出ル「ヲ防ク義務ナキ「ハ勿論ナレトモ溢水ニ非サル日用ノ水又ハ人工ニテ成シタル水ニ付テハ其義務アリ就中屋根ヨリ落ル水ハ他人ノ土地ニ溢出サシムル權利ナシ（第一篇第八章百八十九條「ライン」近傍ニ行ハル、法律ニ從ヘハ土地所有者ハ公道ニ雨霽ヲ流ス權アリ

五 都テ溢水ノ經過ニ付キ爭ハ通常裁判所ノ管轄ニ屬スル者ニシテ警察官ノ關涉スルモノニ非ス（千八百七十七年三月十日ノ上等行政裁判所判決判決録二卷二百六十九帖）

三 溝堀割ノ水ノ經過

ノイハウス氏説明上

一 溝堀割ハ人工ニテ製シタル私有ノ水道ナレハ止タ土地ヨリ水ヲ溝堀割ニ落ス權ハ所有者ニアルノミ故ニ水ノ經過ヲ求ルノ權モ亦其所有者ニアルナリ

水ノ經過ヲ求ムル要件ハ「ローベルトリユミナール」ニ於テ屢々判決ヲ下セシ如ク(例ヘハ千八百五十七年一月廿八日ノ判決判決録二十三卷二百九十七帖)堀割溝ノ保存ヲ求ムル權ヲ有スルニアリ之ヲ詳言スレハ水ノ經過ヲ求ムル者ハ溝ノ保存ヲ求メ得ル者タルヘシ

二 溝ニ於ケル水ノ經過ヲ爲サシメタリ又ハ經過ノ妨ケラレタル中ノ之ヲ改正セシムヘキ者ハ其溝ノ保存ヲ爲ス義務ヲ有スル者タルヘシ

三 第一第二ニ從ヘハ水ヲ經過セシムルコト又ハ其經過ノ妨ケヲ改正セシムルノ申立ハ其溝ヲ掃除セサルカ爲メ土地所有者ニ損害ヲ與ヘキ理由ノミヲ以テハ足レリトセス其他土地所有者ハ溝ニ水ヲ落スヘキ權利アルコトヲ證明スヘシ

①此證明ハ水道ニ用フル溝又ハ人工ノ水落シニ用フル溝ニ於テハ溝ヲ作ル中結ヒタル契約ニ因ルヘシ

②其他ノ溝ニ於テハ水ニ自然ノ流通ヲ與フヘキモノナルヤ否ニ因テ其違アリ(一篇八章百條)

自然ノ流通ヲ爲ス溝ナル中ハ其溝ニ水ヲ落スヘキ土地ノ爲メ水ノ經過ヲ求ムルヲ得併ナカラ此溝ノ何レノ目的ノ爲メニ設タルモノナルヤハ屢々證明シ難キコトアリ

實際ニ於テハ數年間或ル土地ヨリ水ヲ經過セシメタル溝ハ此土地ノ爲メニ設ケタルモノニシテ其水ノ流ヲ妨ケサル様保存スヘキモノトス勿論其溝ノ其土地ノ爲メニ設ケタルニ非サル證據アルルルハ格別ナリトス(千八百六十三年十月十五日「ラ―ベルトリユミナール」判決判決録五十三卷二十九帖)

四 溝堀割ニ水ヲ經過セシムルコトニ付キ争ハ通常裁判所ノ管轄ナリトス止タ千八百十一年十一月十五日水車ノ堰水及ヒ水ノ經過ニ關スル法律第十條ノ場合ニ於テハ警察官ノ管轄ナリトス

①此條ニ溝又ハ水道ヲ保存スヘキ義務アル者ハ云々シタルルルハ警察官ヨリ草ヲ刈リ泥ヲ浚フヘキ義務ヲ負擔セシメラル、コトヲ得ト記シタルト雖モ警察官ハ草ヲ刈リ又ハ泥ヲ浚フコトヲ怠リタ

ルルハ如何ナル場合ニ於テモ立入ル權ヲ有スルニ非ス止タ第十條ニ掲ケタル場合則草ヲ刈リ又ハ泥ヲ浚フヘキコトヲ怠リ又ハ水底ヲ埋ムルカ爲メ他ノ土地又ハ製造場又ハ近隣ノ健康ヲ害スル場合ニ限り立入ルコトヲ得ルノミ(千八百七十七年五月三十日上等行政裁判所判決判決録二卷二百八十一帖)

②又第十條ニ從ヘハ溝ヲ保存スル義務者ノ明カナルルルニ非サレハ立入ルコトヲ得ス若シ義務者ノ明カナラサルルルハ先ツ通常裁判所ニテ其義務者ヲ決定シタル後ニ非サレハ立入ルコトヲ得ス是故ニ警察官ノ(預シメ裁判官ノ決定ヲ乞フルルル)立入ル効ハ甚タ少ナキモノナリ之カ爲メニ千八百三十二年八月廿五日ノ布告(司法省布達全書千八百四十年百二十九帖)ハ之レニ注目シテ警察

官ノ權限ヲ張大ニシ草ヲ刈リ泥ヲ浚フニ必用ナル義務者ノ定マ
ラサル并假リニ其義務者ヲ裁定セシメタリ其裁定ニ對シ其後通
常裁判所ニ訴フルコトヲ得

然レモ第十條ノ場合ニ於テ何レノ時(何レノ時ノ意味ニハ元來
草ヲ刈リ泥ヲ浚フコトノ必用ナルヤヲ含蓄ス)及ヒ如何ナル方法
ヲ以テ草ヲ刈リ泥ヲ浚フノ裁定ハ全ク警察官ノ權限ニシテ通常
裁判所ノ與カル所ニ非ス(千八百五十三年四月十六日及ヒ千八
百五十五年三月十日權限爭裁判所ノ判決司法省布達全書千八百
五十三年ノ二百二十帖千八百五十五年ノ二百十八帖千八百七十
一年二月十七日及ヒ千八百七十八年六月廿五日「ヨーベルトリ
ユミナール」判決判決録六十六卷二百六十三帖百卷七十八帖)

①警察官ノ裁定ニ對シテハ行政裁判所ニ訴フルコトヲ得(地方行
政權限法九十八條但泥ヲ浚フ義務ノ有無ヲ裁判シ如何ナル時又
ハ如何ナル方法ヲ用フルヤ否ハ裁判スルコトヲ得ス)

其裁判ハ終審ナリトス(地方行政權限法四條二項)

②警察官ハ關係者ノ申立ニ因ルカ又ハ職務上ヨリシテ立入ルコ
トヲ得然レモ關係者ヨリ警察官ノ立入ヲ訴フルコトヲ得ス(千八百
七十八年一月廿六日上等行政裁判所判決判決録三卷二百十四帖
及千八百七十九年六月五日ノ判決判決録五卷二百六十一帖)

③溝ヲ保存スル義務ノ有無及ヒ何人カ其義務ヲ有スヘキヤ否ハ
第一篇①ノ三ニ掲ケタル規則ニ從テ警察官ヨリ假リノ裁判ヲ爲
スヘシ

⑥如何ナル時及ヒ如何ナル法律ヲ以テ溝ヲ浚フヘキヤ否ニ付キ
 争ハ已ニ記セル如ク第十條ノ場合ニ於テ警察官又ハ行政裁判所
 ノ權限ニ屬スルモノニシテ通常裁判所ニテ裁判スルコヲ得ス
 ⑦草ヲ刈ルトハ溝ノ中ニ生シテ水流ヲ妨クル草木ヲ取除クコヲ
 云フ

⑧泥ヲ浚フトハ其意義種々アリ

一 第一泥ヲ浚フコノ義務ハ保存義務ノ部分タルコトハ疑ヒヲ入
 レス千八百七十七年五月十二日上等行政裁判所ノ判決ニ因レハ
 (判決録二卷二百七十條)保存トハ已ニ成立タル者ニ關セサレ
 ハ保存ト云フコヲ得ス故ニ一方ニ權利アリ一方ニ義務アリテ
 之ニ妨ケアリタルトハ舊ニ復サシムルニ止ルヘシ若シ契約等

アリテ之ヨリ多ク求ントスルトハ通常裁判ノ手續又ハ水ノ經
 過布告第十五條以下ニ從テ訴フヘシ(千八百七十八年二月九
 日上等行政裁判所判決ヲ見合スヘシ判決録三卷二百一十一帖)
 二 千八百七十九年三月廿日ノ上等行政裁判所ノ判決ニ因レハ
 (判決録五卷二百五十帖)

千八百十年十一月十五日ノ法律第十條ニ掲ケタル泥浚草刈ノ
 義務ハ其意義ニ因テハ水底及ヒ水岸ヲ通常ノ有様ニ維持スル
 ニ止ルノミ故ニ水底ニ泥ノ積聚シ水岸ニ塵埃ノ堆聚シ及ヒ崩
 壞スルヲ防クカ又ハ是等ノ爲メ水流ヲ妨ケラレタルトハ之ヲ
 取除クニ止ルノミ水底及ヒ水岸ヲ通常ノ有様ニ保存スレハ泥
 浚ノ義務ハ全ク盡シタルモノトス其義務ハ止タ法律ニ因テ盡

スヘキ義務ニシテ(故ニ契約等ニ因テ盡スヘキ義務ニ非ス之ヲ
怠ルルハ警察官ヨリシテ盡サシメラル者ナリ又水中ノ物質ハ
流動ナルト凝結ナルトニ拘ハラヌ之ヲ取除クヘキ義務ナシ)

三 前項ニ掲クル所ニ因レハ溝岸ヲ保存スヘキ義務ノ範圍モ亦
明カナリ則水ノ經過ヲ續イテ保存セシメ又場合ニ因テハ岸ヲ
固ムヘキコナリ

又泥浚ノ義務ハ埋モレ土及ヒ水底ノ積聚ヲ取除キテ水ノ經過
ヲ妨ケサラシムルニアリ(千八百七十八年十一月十四日上等
行政裁判所ノ判決判決録四卷二百七十一帖)

併ナカラ泥浚ノ義務ハ全ク溝堀割ノ有様ヲ舊ノ如ク保存スル
ノミナレハ其溝ヲ廣クシ又ハ深クスルノ義務ナシ又切通ヲ設

ケテ水流ヲ速カニスルノ義務ナシ(千八百五十六年六月廿五
日及ヒ九月廿八日ノ布達内務行政布達二百十六帖二百六十

三帖)

①溝及堀割ニ於ケル水ノ經過ハ或ハ自然ニ岸ニ泥ノ埋マリ又ハ
岸ノ崩頽スルニ因テ妨ケラル、コアリ或ハ人工ニ因テ妨ケラル
、コアリ其人工ノ妨ケトハ水ノ流通ヲ妨クル爲メ水底ヲ全ク埋
ムルカ又ハ一部ヲ埋ムルニ因テ妨クルコアリ又ハ水ニ堰シテ妨
クルコアリ水ニ堰スルトハ人工ニテ水ノ流通ヲ沮メ上流下流ニ
水ノ高低ヲ爲サシムルコト云フ

自然ニ溝又ハ堀割ノ埋リタル土ヲ取除クコトハ泥浚ニ屬スルモノ
ニシテ警察官ヨリシテ之ヲ浚フコトヲ命スルコトハ明カナレハ人工

ニ因テ水ノ流通ヲ妨ケタル所ハ之ヲ泥浚ノ内ニ看做スヘキヤ否
ハ明カナラス

上等行政裁判所ハ此點ニ付キ千八百七十八年三月廿一日ニ左ノ
如ク判決ヲ爲セリ

草ヲ刈リ泥ヲ浚フトハ自然ニ水底ノ變シタルト則泥ノ埋リ草
ノ生スルヲ取除クトニ限ルナリ又法律ノ言語又ハ意義ニ戻ラス
シテ人工ヲ以テ水底ヲ變シタルト自然ニ變シタルト同等ニ
看做スコトヲ得レモ立法官ノ地方警察官ニ水底ヲ浚フヘキ義務
ヲ監督スル權ヲ委任シタルトハ水堰仕掛ヲ設ケ之ヲ使用スルト
ニ付キ監督ヲ委任シ且水流及ヒ水堰仕掛ヲ使用スルトニ付キ爭
ヒヲ假リニ裁判セシメント欲シタリト看做スヘカラス元來水堰

仕掛ハ川溝ノ水底ヲ變セス水ノ流通ヲ妨ケスシテ設クルトヲ得
ルモノナリ

且人工ヲ以テ仕掛ヲ設ケタル所ニハ其水流ヲ保存スヘキ義務ヲ
怠ラスシテ其水ヲ再ヒ河ニ送遣ルトヲ得レハナリ(千八百十一
年十一月十五日法律ニ於テハ毎ニ水堰仕掛ヲ他ノ人工ヲ以テ水
流ヲ妨クルトト區別セリ)

上等行政裁判所ハ同判決ニ於テ水堰仕掛ノ使用ヲ禁スルトハ之
カ爲メ水底ノ變スルト變セサルトニ拘ハラヌ警察官ノ權限ニ屬
スルモノニ非ス若シ禁シタル所ハ警察官ノ權限ヲ超エタルモノ
トセリ

四 私有ノ川ニ於ケル水ノ經過

ノイハウス氏説明上

一 元來私有ノ川トハ人工ヲ以テ一定ノ土地ヨリ水ヲ落ス爲メニ設ケタルモノニ非ス自然ニ成リタル水流ナレハ凡テ其川ニ水ヲ落スヘキ土地ノ所有者ハ其河水ノ經過ヲ求ムルノ權ヲ有スヘシ又千八百四十三年二月二十八日私有川ヲ用ユル法律第一條第二條ニ於テ川岸所有者並ニ近隣ノ住民ニ此川ヲ使用スル權ヲ與フレハ何人ニテモ此川ヲ使用スル權ヲ有スル者ハ又其經過ヲ求ムルノ權ヲ有スヘシ又普國法律全書第一篇第八章第九十九條ニ於テモ一般ニ私有川ノ流通ヲ妨ケテ其近隣及ヒ川岸所有者ヲ害ス可カラスト定メタリ

二 水ノ經過ヲ保存シ及ヒ其妨害ヲ取除クコトハ別ニ州ノ規則又ハ地方規則或ハ慣習ニ定メナケレハ千八百四十三年二月二十八日

ノ法律第七條ニ從テ川岸所有者ニ其義務アリトス但其義務ハ其泥ヲ浚フニ止マルヘシ

泥ヲ浚フヨリ他ノ義務ハ法律ニ於テ私有川ノ經過ヲ保存セシムル義務ノ中ニ含マシメス此法律ヲ發スルマテハ私有川ヲ浚フヘキ義務ヲ定メタリシ法律ナカリシナリ

三 泥ヲ浚フヘキヤ如何ナル時及ヒ如何ナル方法ヲ以テ爲スヘキヤ否ハ千八百四十三年二月廿八日ノ法律第七條ニ因レハ獨リ警察官署ニ於テ裁定スヘキモノトス其他裁定ヲ爲スニハ千八百四十一年十一月十五日法律第十條ヲ適用スヘシト雖モ（水車ノ水堰ニ關スル法律）警察官ハ何人ニテ其義務ヲ有スルヤ否ヲ裁定スルコトハ假リノ裁判ニシテ其後通常裁判所ニ訴フルコトヲ得ルナリ

此法律ハ止タ溝堀割ノミナラス一切ノ水流則私有公有ノ川ニモ
 關涉スヘシ(千八百七十二二年十二月五日ノ布達内務布達全書千
 八百七十三年四十五帖及ヒ千八百七十七年五月三十日ノ上
 等行政裁判所判決決録ニ卷二百八十一帖千八百六十七年三月九日
 ノ權限爭裁判所判決司法布達全書千八百六十七年二百五十九帖)
 四 溝堀割ニ付キ已ニ記シタル事ハ亦私有ノ川ニモ適用スヘシ但
 私有ノ川ニ於テ其經過ヲ保存セシムル權利者ハ溝堀割等ニ比較
 スレハ甚タ多ケレハ殆ント公ケノ川ヲ保存スルニ異ラス
 五 公ケノ川ニ於ケル水ノ經過
 「ニ―デルヂング」氏ノ水法及ヒ水上警察書第三十條ニ左ノ如ク云ヘリ
 公ケノ川ニ於テハ其經過ハ小ナル川ニ於ケルカ如キ妨害ヲ受ク

ルコ稀ナリ若シ其經過ヲ妨ケタルハ水ノ經過ヲ求ムル權利ヲ
 妨クルヨリハ肝要ナル航船ノ權ヲ妨ケタルモノナレハ法律ニ於
 テ嚴ニ其防護ヲ爲セリ故ニ公ケノ川ニ於ケル水ノ經過ノ妨害ハ
 別段ニ防護ヲ受ケストモ他ノ妨害ヨリシテ自カラ防護ヲ受クル
 コナリ
 人工ヲ以テ水ノ經過ヲ妨ケタルハ航船ヲ保存スヘキ規則ニ從
 テ之ヲ取除クヘシ又自然ニ川岸川底ノ變シテ之カ爲メ水ノ經過
 ヲ妨ケタルハ之ヲ取除クヘキ義務者ハ法律ニ絶テ定メス元來之
 ヲ定ムルコノ無用ナレハナリ何トナレハ已ニ政府ニ於テ航船ノ
 爲メニ川底川岸ヲ保存スヘキ義務ヲ負擔スレハ流通ノ妨害ヲ除
 クニ足レハナリ

公益ノ爲メニ水ノ經過ヲ付クル事

普國法律全書第二篇十七章十條ニ從ヘハ警察官ハ至急ヲ要スル場合ニ於テハ公益ノ爲メ民法(民法ニ於テ求ムル權ノ有無ニ拘ハラズ)外ニ於テ水ノ經過ヲ付ケンコトヲ求メ若シ從ハサルキハ強ヒテ其經過ヲ付ケシムル權アリ例ヘハ洪水ニ於ケルカ如クナリ(千八百四十年二月十四日布達内務布達全書百八十一帖)

第三篇 人工ニテ水ヲ落ス

一 水落トハ溜水ニ吐場ヲ付ケ又ハ流水ノ掃ヲ善クスル爲メナリ此二ツノ一ハ從來水ノ掃ヲ妨ケタル仕掛ヲ取除ケ又ハ從來ノ水路ヲ濶クシ又ハ新タニ水路ヲ作クルコトニ因テ爲スコトヲ得ルナリ
水落ニ關スル法律ハ此土地所有者ヨリ彼土地所有者ニ對シテ前項

ノ處分ヲ爲シ得ル經界ト及水落ノ仕掛起業者ヨリ其經界ニ於テ仕掛ヲ設ケ得ル手續ヲ定ムルモノナリ

②土地所有者ハ其土地ニ於テ隨意ニ水落仕掛ヲ設クルヲ得然レモ之カ爲メニ他人ノ權利ヲ害シタルキハ通常裁判所ニ訴ヘラル、コトヲ得契約等ニテ別ニ定メナキハ水落仕掛ヲ設クル爲メ上下ノ土地ニ水ノ變化ヲ生セシムルト雖モ之ヲ以テ他人ノ權利ヲ害シタルト看做ス可カラズ(其理由ニ付テハ第一篇ノ(一)公ケニ非サル水ノ所ニ掲ケタルモノヲ參看スヘシ)

③水落仕掛ヲ設ケル爲メニ他人ノ土地ヲ使用シタルキハ其所有者ハ之ニ對シ故障ヲ申立ル權アルハ當然ナレモ法律ニ因テハ概子之ヲ許サス然レモ他人ノ土地ニ水仕掛ヲ設ケントスルニハ或ル要件ト

或ル制限トニ從ハサル可カラス

水落ノ權ニ付テハ千八百十一年十一月十五日ノ水車ノ水堰等ニ關スル法律ノ第十一條以下ニ之ヲ定メリ(千八百五十三年五月十一日ノ法律第三條普國法律全書百八十二帖)

④人工ヲ以テ設ケタル水流ノ障碍物ヲ取除クコト千八百十一年十一月十五日ノ法律第十一條第十二條ニ從ヘハ水車所有者其他水流ヲ堰ク權ヲ有スル者ハ耕作又ハ航船ノ爲メ水ヲ要スル者ヨリ損害ノ償金ヲ與ヘントスルカ若シ全ク水車ヲ除去セントスルハ償金ヲ出スノミナラス別ニ近傍ニ其代リト爲ルヘキ水車アルハ耕作航船ノ利益ノ大ナルハニ限り其水流ノ全部又ハ一部ヲ流通スヘキ義務アリ(近傍ニ水車ナキハ麵包ノ粉ヲ作ルニ大ナル不便ヲ與ヘ

一般ヲ害スレハ其代リニ近傍ニ水車アルハニ限り其水車ヲ止メテ水ヲ通スヘシ)

⑤耕作又ハ航船ノ爲メ大ナル利益トハ水流ヲ沮ル爲メ耕作航船ノ受クル損害ト水車所有者等ノ權利ノ全部又ハ一部ヲ失ハシムルニ因テ生スル損害トヲ比較シテ其耕作等ノ損害ノ大ナルハニアルモノトス航船ノ利益ハ雙方ノ利害ヲ斟酌シ(金高ヲ以テ定ムルヲ得ス)之ヲ決定スルヲ得耕作ノ利益ハ一方ノ利益ト他方ノ損害トヲ評定シテ知ルコトヲ得ルナリ

⑥水車ヲ保存スレハ得ヘキ所ノ利益ノ賠償ハ其近傍ニ於テ水車ノ數多クアルハ之ヲ出スニ及ハス場合ニ因テハ落水ノ起業者因リ新ニ水車ヲ築キテ與フヘキコトアリ然レモ通常ハ水車ヲ改正シテ十

分水ノ流通ヲ得ルモノナリ

⑤人工ヲ以テ水落ヲ作ルコ

④此水落ヲ設ケントスルニハ必ス耕作ノ爲メ大ナル利益アラサレハ之ヲ設クルコヲ得ス(千八百十一年十一月十五日法律第十三條第十一條ヲ合セテ參看スヘシ)

③前項ノ要件アレハ起業者ハ他人ノ土地ニ水落シ溝ヲ作ルコヲ得然レモ起業者ハ其土地所有者ニ賠償ヲ爲スヘシ但起業者ハ其水ヲ他人ノ土地ニ導キテ其所有者ヲシテ又其他ノ所有者ニ導カシムルコヲ得ス(自カラ導クヘシ他人ヲシテ導カシムルコヲ得ス)(法律第十三條十五條ヲ見合スヘシ)

②落サントスル水ノ性質ハ如何ナルモノナルヲ問ハス例ヘハ内海

沼池又ハ雨露又ハ人工ニテ出シタル水(土炭ヲ掘取タル跡ニ出タル水ノ如シ)(千八百七十八年二月二十八日上等行政裁判所判決判決録三卷二百二十六帖千八百八十年十月廿八日ノ「ガラーツ」ノ靴屋ニ關スル判決千四百八十六號)

①人工ヲ以テ水落ヲ作ルコヲ得ル要件ハ止タ耕作ノ利益ノ爲メナルトニ限ルモノナレハ營業製造又ハ建築ノ利益ノ爲メニハ水落ヲ作ルコヲ得ス

④他人ノ土地ニ溝ヲ設クルコヲ得ルモノハ亦既ニ(他人ノ土地ニ元ヨリアル溝ナリ)在ル溝ヲ使用シ且場合ニ因テハ之ヲ深クシ及ヒ之ヲ廣ムルヲ得(千八百七十八年二月二十三日上等行政裁判所判決判決録三卷二百二十六帖)

⑩ 他人ノ土地ニ作りタル溝ハ起業者ノ所有ニ屬セス土地所有者ニ屬スルモノナリ然レモ土地所有者ハ水落ノ用ニ供スル間ハ之ヲ自由ニ處分スル權ナシ又起業者ハ其溝ニ付テハ獨リ使用スル權ヲ有シ且別ニ契約ナケレハ其保存費ヲ擔任スヘシ
 已ニ在ル溝ヲ廣メント欲スルモハ之ヲ使用保存スルコトニ付契約ヲ結フヘシ

⑪ 償金ハ止タ溝ヲ作ル爲メ又ハ之ヲ廣ムル爲メニ出スノミナラス又溝ノ經過シタル土地所有者ニテ受ケタル都テノ損害及ヒ溝ヲ作りタルカ爲メ近隣ノ土地所有者ニテ受タル損害ヲモ償フヘシ(近隣ノ土地所有者ノ受ケタル損害トハ例ヘハ地水ノ増嵩ニ因テ耕作ノ害ト爲ル類)

⑫ 水落ノ仕掛ヲ設クル費用并ニ千八百十一年十一月十五日ノ法律第十六條以下ノ手續ノ費用ハ起業者ニテ之ヲ負擔スヘシ(第三十條)溝ノ通ル土地ノ所有者ニテ溝ヲ使用セント欲スルモハ相當ノ費用ヲ資フヘシ

⑬ ①②ヨリ⑭マテノ規則ハ千八百五十三年五月十一日ノ法律第三條ニ從ヒ蔽フタル溝又ハ水管ノ水道ニモ適用スヘシ但⑮ノ規則ヲ除クヘシ(則土地所有者ノ所有ニ非サルコトヲ云フナリ何ナレハ水管又ハ水樋等ハ何時ニテモ取除クコトヲ得ルナリ)

⑯ 千八百十一年十一月十五日ノ法律第十五條ヨリ第三十三條迄ニ從ヒ⑰ニ掲ケタル水落仕掛ニ付キ警察官ノ手續此手續ハ(別段ナル契約等ニ因テ他人ノ土地ニ水落仕掛ヲ設クル者ハ此手續ニ因ラス)

五箇ニ分レリ

○郡總代ニ水落圖ヲ差出スコ(郷總代)千八百十一年十一月十五日ノ法律第十五條千八百七十六年七月二十六日ノ地方行政權限法第百條一項

⑤郡總代ヨリ命シタル鑑定人ニテ其圖面ヲ検査スルコ(千八百十一年十一月十五日ノ法律第十六條十七條地方行政權限法第百條二項)

⑥郡總代ニテ其圖面ヲ決定スルコ(㊤ヨリ㊣マテノ手續ハ行政裁判手續ヲ以テ爲スヘシ

(同法律第十八條權限法第百條)圖面ヲ決定スルキ又其手續ノ費用ノ負擔者ヲ定ムヘシ(同法律第三十四條及ヒ千八百八十年十月廿

八日ノ上等行政裁判所判決千四百八十六號「ガラーツ靴屋事件」)

郡總代ノ決定ニ對シテハ同法律第二十條ニ定メタル外ハ通常裁判所ニ訴フルコヲ得ス止タ行政裁判所ニ控訴スルコヲ得ルノミ(同法律第十九條)

其事件ヲ通常裁判所ニ(二十條ニ從ヒ)廻ハストモ水落仕掛ノ施行ヲ止ムルコヲ得ス

⑦損害賠償ハ仲裁裁判官ニテ之ヲ定ムヘシ(仲裁裁判ハ水落圖面ノ終審裁定アリタル後ニ爲スコヲ得ルモノナリ)

⑧水落仕掛ハ仲裁裁判官ノ監督ヲ以テ之ヲ設クヘシ(㊤㊣ニ付テハ同法律二十一條ヨリ三十三條マテ及行政權限法百三條ヨリ百五條マテヲ見合スヘシ

七千八百十一年十一月十五日ノ法律ニ定メタル警察官ノ手續ニ因ラ
スシテ水落仕掛ヲ設ケタルカ爲メ他人ノ權利ヲ害シタルハ其損
害賠償ハ同法律ニ從テ警察官ニテ之ヲ裁定スルコトヲ得ス通常裁判
所ニテ裁判スヘシ

八警察官ハ水落仕掛ヲ設クルハ之カ爲メ公衆ニ妨害ヲ加ヘントス
ルカ又ハ公益航船ヲ害スルノ恐レアリタルハ之ニ立入ノ權アリ
(普國法律全書第二篇第十七章第十條千八百五十年八月六日ノ布
達內務行政布達全書百六十八帖)

九千八百四十六年一月廿三日ノ水落仕掛ノ爲メノ公告及ヒ期滿失權
ノ手續ニ關スル法律

④千八百十一年十一月十五日ノ法律ニ於テ人工ヲ以テ水落仕掛ヲ

設クルコトヲ得セシメタリ然レモ多クノ土地ヲ通過スヘキ大ナル水
仕掛ヲ設クルニハ其關係ノ混雜シテ豫シメ如何ナル他人ノ權利ヲ
害スヘキヤヲ知ルコト能ハス且之カ爲メ如何ナル賠償ヲ爲スヘキヤ
ヲ知ルコト能ハサルニ因リ起業者ヨリ屢其業ヲ着手セサルコトアリ此
不十分ナルコトヲ補ハンカ爲メ此法律ヲ發シタルナリ此法律ニ因レ
ハ起業者ハ警察官(郡總代ヲ指ス)ノ仲裁ヲ求メ此法律第一條ニ掲
クル如何ナル故障又ハ損害賠償アルヤヲ保證セシムル權アリ(但
起業者ヨリ警察官ノ仲裁ヲ求ル義務アルニ非ス)

⑤此手續ハ止タ故障及ヒ損害賠償ノ範圍ヲ決定スル爲メニシテ其
申立ノ權利ノ理由ノ有無ヲ定ムルモノニ非ス

故ニ其裁定ハ(此法律五條)期限内ニ申出タル者ノ權利ヲ認メ申出

サル者ノ權利ハ此法律第三條三項ニ從テ消滅セシムルモノトス
其裁定ハ郡總代ニ於テ之ヲ爲スヘシ其裁定ニ對シ其消滅セラル、
ニ因テ失ヒタル期限ヲ舊ニ復サンコトノ申立ハ行政裁判手續ヲ以テ
裁定スヘシ(地方行政權限法百八條二項)

◎都テ水落仕掛ニ對スル公ケノ利益(警察官ニテ仲裁ヲ得ス)及ヒ
新タニ水ヲ引クコトニ因リ受ケタル損害賠償ヲ求ムル權ハ此手續ニ
因テ失フモノニ非ス後日ニ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得(同法律一條
四條)

此手續ハ水落仕掛ノ圖面ニ掲ケタルモノ、ミニ關スレハ其圖面ニ
掲クル仕掛ノ爲メ直ニ損害ヲ受クル水及ヒ土地ニ付キ効アルノミ
◎此手續ハ水落仕掛ノ着手中又ハ前後ニ始ムルヲ得レト起業者ノ

申立ナケレハ之ヲ始ルヲ得ス(同法律一條)

第四篇 水ヲ堰クコト

一 水ヲ堰クコトハ仕掛ヲ設ケテ流水ノ自然ノ流通ヲ障サヘルコトヲ
云フナリ其水ヲ堰ク目的ハ上流又ハ下流又ハ上流及ヒ下流ニ人工
ニテ水ヲ高低セシムルニアリ而シテ通常ハ其堰キタル水ヲ他ニ使
用スル爲メニ導クモノナリ水ヲ堰クコトハ水ヲ使用スルコトナレハ一
般ニ水ヲ使用スルコトニ付キ定メタル制限ニ從フヘシ

二 溝及掘割ニ於テハ水ヲ引キ又ハ水ヲ落ス目的ニ背キ水ヲ堰ク仕
掛ヲ設クルコトヲ得ス就中仕掛ニ因テ自己ノ土地ヲ越エテ水ヲ激セ
シム可カラス

又水堰仕掛ヲ設ケテ現在ノ水車ノ運轉ニ必用ナル水ヲ奪フコトヲ得

ス(普國法律全書二篇十五章二百二十六條二百四十六條)

三 私有ノ川ニ於テハ水堰仕掛ヲ設ケ因テ自己ノ土地ヲ越エテ水ヲ
激シ又ハ他人ノ土地ニ水ヲ溢レシメ又ハ浸潤セシム可カラズ(千
八百四十三年二月二十三日ノ私有川私用規則第十三條)(水流ニ關
ヲ爲シテ水ヲ激セシムルコト水ヲ激スルトハ自分ノ土地境ヨリ上ニ
水ヲ激シテヤルコトヲ禁スルナリ自分ノ土地ノ上ニ水ヲ流スコトニ非
ス土地ノ界ナリ)

千八百四十三年二月二十三日ノ法律第十六條ニ從ヘハ他人ノ水車
ニ對シテハ水堰仕掛ヲ設ケ因テ此條ニ定メタル範圍外ノ水ヲ奪フ
コトヲ得ス

此十六條ニ於テハ左ノ二箇ノ場合ヲ區別セリ

Ⓐ 水車ニ水ヲ使用スル權ハ契約等ニ因テ定マリタル場合

Ⓑ 契約等ニ因テ定マラサル場合ト云フ

Ⓐノ場合ニ於テハ契約ニ因テ定リタル水量ニ從フヘシⒷノ場合ニ
於テハ從來ノ如ク水車ヲ運轉スルニ必用ナル水量ニ從フヘシ從來
ノ運轉トハ止タ實際ニ爲ス所ノ運轉ヲ云フノミニ非ス又車ノ内部
ノ仕掛ニ從ヒ及ヒ車ノ大小ニ從ヒ及ヒ土地ノ景況ニ依リ流通スル
水ノ多少ニ從テ千八百四十三年二月二十三日ノ法律ヲ頒布スル
有スヘキ水車ノ運轉力ヲ云フナリ(千八百五十七年二月十三日「
ベルトリユミナル」判決判決錄三十七卷百七十三帖及千八百
六十一年十一月五日ノ判決判決錄四十四卷四十九帖)

四 公ケノ川ニ於テハ政府ノ許可ナケレハ何人ニテモ水ヲ堰クコトヲ

ノイハウス氏説明上

得ス(一篇八章九十七條)政府ニ於テハ航船ノ爲メナルカ又ハ航船ヲ害セサルハ非サレハ水ヲ堰クノ許可ヲ爲ス可カラス

五 水堰仕掛ヲ設クル者ノ民法ニ從テ其權ヲ有スルト雖モ之カ爲メニ公益ヲ害(例ヘハ公道ノ通行ヲ害スルカ如シ)スルハ警察官ヨリ之ヲ取除カシムルヲ得(第二篇第十七章十條及千八百七十八年六月十三日ノ上等行政裁判所ノ判決ニ於テ「トレスゴト」ノ區長ヨリ「ゲンツ」氏ニ對スル事件ニ於テ明白ニ其事ヲ言ヘリ)公益トハ如何ナルモノヲ言フカハ一般ニ之ヲ定ムルヲ得ス其場合ニ從テ定ムルノミ

六 水ヲ堰ク權ヲ有スルヤ否ノ争ヒニ付テハ通常裁判所ニ於テ裁判スヘシ然レモ左ノ場合ニ於テハ格別ナリトス

① 公益ヲ害シタルカ爲メ警察官ヨリシテ水堰仕掛ヲ禁シタル場合ニ於テハ其命令ハ通常裁判所ヨリ爲シタルニ非スシテ警察官ヨリ爲シタルモノナレハ警察官ノ命令ニ對スル上訴ヲ爲スヲ得ルナリ
② 千八百四十三年二月二十三日ノ法律第十六條ノ④ノ場合ニ付キ争ノ起リタルハ行政裁判所ニテ判決スヘシ(千八百七十六年七月二十六日ノ地方行政權限法百九條)

七 水ヲ堰クヲ得水面ノ高低ヲ決定スルコ

① 水車ノ爲メ及ヒ其他水關ニ因テ水流ヲ障ヘルニ未タ警察官ヨリ標柱ヲ立テサルハ何人ニテモ之ニ關係アル者ハ自己ノ費用ヲ以テ之ヲ立ル權アリ其標柱ニハ夏冬ノ水面ノ最高點ヲ記スヘシ又航船ノ爲メニハ最低點ヲ標柱ニ記スルヲ得(千八百十一年十一

月十五日ノ法律一條二條「シツヘルハイツフハール」及ヒ「メルキフハール」ノ區別ニ付テハ千八百四十五年十月三日ノ布達ヲ見ルヘシ内務布達全書三百五十六帖)

⑤水面ノ最高最低ノ點ヲ定ムル手續ハ千八百十一年十一月十五日ノ法律第二條ヨリ第七條マテ及千八百七十六年七月廿六日ノ地方行政權限法第九十九條ニ從フヘシ

⑥標柱ヲ設ケタル中其印ヲ越エテ水ヲ障ヘタル中ハ警察官ハ何時ニテモ之ニ立入ルコトヲ得(千八百十一年十一月十五日ノ法律第八條第九條其命令ニ對スル上訴ハ通常警察官ノ命令ニ對スル上訴ト同シ)

八 水力ヲ以テ器械ヲ運轉セシムル爲メ水堰仕掛ヲ設クル別段ノ規

則(千八百六十九年六月廿一日營業規則第十六條)

①其仕掛ハ同規則第十六條ヨリ第二十二條マテニ從テ別段ノ許可ヲ得ヘシ然レモ第二十三條ニ從ヘハ之ニ關スル各連邦ノ法律ノ効ヲ有スレハ第十六條ニ從テ許可ヲ爲スルハ又其法律ニ從フヘシ

②各連邦ノ法律トハ左ニ掲クル者ヲ云フナリ

一 普國法律全書第十條ニ從ヘハ警察官ハ公益ヲ妨害スル仕掛ヲ禁スル權アリ

二 一篇八章第九十七條(水車ノ爲メニ設ケタル仕掛ニ付テハ千八百十年十月二十八日ノ水車ヲ設クル權ノ布告第八條ヲ見合スヘシ法律全書九十五帖)ニ從ヘハ國內警察官ハ公益ノ爲メ就中耕作ノ爲メ水車又ハ水堰仕掛ノ新建築又ハ改造ニ立入ルノ權アリ

①民法ニ因テ申立タル水堰仕掛ニ對スル故障ハ營業規則第十六條ニ從テ裁定スルヲ得ス其裁定ハ通常裁判所ノ管轄ニ屬スヘシ
(營業規則第十九條)

通常裁判所ニテ裁定スヘキ故障トハ普國法律全書二篇十五章二百三十八條及ヒ二百四十六條ノ故障ヲ言フナリ

第五篇 人工ヲ以テ水ヲ灌ク事

人工ヲ以テ水ヲ灌クコトハ私有ノ川ヨリ水灌クコトニ付テノミ法律アリ其法律トハ則千八百四十三年二月二十八日ノ私ノ川ヲ使用スル規則第二章ナリ(第十三條ヨリ第五十五條マテ)

- 一 人工ヲ以テ水ヲ引カン爲メニ私有川ヨリ水ヲ奪フコトハ(同法律第二條ハ止タ永久スヘキ水道ヲ設クル權ノミヲ與ヘタルニ非ス)

(千八百四十六年二月廿二日ノ「ヨーベルトリユミナール判決判決

錄九十五卷二百三十三帖)川岸所有者ニアルノミ然レモ川岸所有者ハ耕作ノ利益ノ爲メ及損害ヲ受ケタル者ニ賠償ヲ出シテ同法律第一條第三條ノ使用權ヲ其土地ニ直接スル土地所有者ニ之ヲ讓ル權アリ(同法律第二十五條第五)

二 私有川ヨリ水ヲ引クニハ左ノ制限アルヘシ

①其他ノ川岸所有者並ニ水力ヲ要スル仕掛所有者ノ爲メニハ同法律第十三條第十四條第十六條ヨリ第十八條マテノ制限ナリ

②公益ノ爲メニハ同法律第十五條ノ制限アリ

三 水ヲ灌ク仕掛ヲ設クルニハ警察官ノ許可ヲ要セス然レモ起業者ハ左ノ場合ニ於テ警察官ノ仲裁ヲ求ムルヲ得

①同法律第十九條第二ニ掲ケタル故障ヲ申立又ハ賠償ヲ求ムル權ヲ保證セシメントスルルル

②新ニ仕掛ヲ設クルカ又ハ現在ノ仕掛ヲ維持スル爲メ故障ヲ申立ヘキ者ヨリ其權利ヲ讓リ受ケ又ハ其權利ヲ制限センコトヲ求ムルルル

四 同法律ハ

①第二十條ヨリ第二十三條マテニ於テ三ノ①ニ掲ケタル故障及ヒ損害ノ償ヲ求ムル權ヲ決定スルコトヲ定メ

②第二十四條ヨリ第五十五條マテニ於テハ起業者ヨリシテ他人ノ權ヲ奪ヒ及ヒ制限シ得ルコトヲ定メリ(三ノ②)

五 故障ヲ申立及損害ノ償ヲ求ムル權ヲ決定スル手續ニ付テハ千八百四十六年一月二十三日ノ法律ニ從ヒ水落仕掛ヲ設クルルルノ手續

ト異ナルコトナシ

官署ノ管轄ハ千八百七十六年七月二十六日ノ地方行政權限法第八條ニ因テ改正シタリ

六 他人ヨリ其權利ヲ起業者ニ讓渡スカ又ハ其權利ノ制限ヲ拒ム可カラサルコト(第十九條ノ二)第二十四條ヨリ第二十九條マテ就中第二十五條ニ定メリ

他人ノ權利ヲ讓受ケ又ハ制限スルコトニ付キテノ要件ハ耕作ノ利益ノ大ナルト損害ノ償金ヲ出ストノコトナリ(第二十四條)其手續ハ四段ニ分レリ

③郡惣代ニ圖面ヲ差出スコト(第三十條第三十一條及ヒ地方行政權限法百十條一項)

⑧ 郡總代ニ於テ圖面ヲ檢査シ且耕作ノ利益大ナルヤ否ヲ決定スルコト其決定ニ對スル故障ハ州輔佐官ニテ裁定スヘシ(第三十二條地方行政權限法ノ百十條ノ二項ヨリ四項マテ)

⑨ 圖面ヲ決定スルコト(郡總代ヨリ委員ヲ設ケテ圖面ヲ詳細ニ檢査シ故障ヲ聞糺シ圖面ヲ作り及ヒ郡總代ニ於テ行政裁判ノ手續ヲ以テ關係者ヲ聞糺シ圖面ヲ決定スルコト)ハ第三十三條ヨリ第四十四條マテニ定メリ行政裁判ニ對スル上訴ニ控訴ト上告アリ(地方行政權限法百十一條)

⑩ 他人ノ權利ヲ讓受ケ又ハ制限スルコトニ付キ償金ヲ決定スルコトハ第四十五條ヨリ第五十五條マテ及行政權限法百十二條ヨリ百十四條マテニ定メリ

七 千八百四十三年二月二十八日ノ法律第十三條以下ニ付テノ判決

① 川岸所有者ニ於テ第十三條ノ制限ヲ越ヘタルヤ否ヲ判決スルルルハ中等ノ水面ヲ適度トスヘシ(千八百五十四年六月二十六日「ヨールベルトリュミナール」判決判決録十四卷七十三帖)

② 第十三條第二ニ定メタル川岸所有者ノ制限ノ川ヨリ引キタル水ヲ川ヘ復タ歸スヘキコトヲ拘泥シテ一滴水タリトモ殘スコナク歸スヘキコト誤認ス可カラズ(千八百六十一年十一月五日ノ「ヨールベルトリュミナール」判決判決録四十四卷四十九帖)

③ 第十三條第二ニ定メタル川岸所有者ニテ其引キタル水ヲ復タ川ヘ歸スニハ通常水ヲ引キタルト同シキ川岸所有地ノ經界ニ於テ其水ヲ歸スヘシ他人ニ屬スル向フ川岸ノ自己ノ經界内ニ始マルルハ

通常存スヘキ水ノ半量ヲ向フ川岸所有者ノ使用ニ供スヘシ(千八百五十四年一月十六日「ラーベルトリユミナール」全員會ノ決定判決録十二卷三百三十七帖)

①水ヲ引キ水ヲ戻スコトニ因テ其水質ヲ惡シクシ且之カ爲メニ他人ヲシテ更ニ導ク可カラサラシムルニ至ルトモ妨ケナシ(千八百六十二年二月十八日「ラーベルトリユミナール」判決判決録四十五卷八十三帖)

②第十六條第十七條ニ付テハ千八百五十七年二月十三日「ラーベルトリユミナール」判決(判決録三十七卷百七十三帖)及ヒ千八百六十一年十一月五日ノ判決(判決録四十四卷四十九帖)ニ於テ從來ノ運轉ヲ爲スニ必用ナル水力ヲ確定セリ

③第二十條第二項ニ付テハ千八百四十三年十二月一日ニ布告ヲ發シタリ然レモ其布告ハ千八百八十年七月廿六日ノ行政編制法四十七條及千八百七十五年七月三日ノ法律第三十二條(普國法律全書三百七十五帖)ニ因テ廢セラレタリ

④第二十三條第二項ニ掲ケタル行政裁判所ハ第二十條以下ニ從テ仲裁ノ手續中ニ其事件ノ關係シタル事ニ限り其裁判ヲ爲スヘシ然ラサレハ通常裁判所ニテ裁判スヘシ(權限爭裁判及上等行政裁判所ニ於テモ常ニ此說ヲ採用セリ千八百七十八年十二月十九日上等行政裁判所判決判決録四卷二百八十九帖)

第六篇 水ヲ落シ水ヲ漑ク爲メ組合ヲ作ル事

千八百七十九年四月一日ノ組合ヲ作ル規則(普國法律全書二百九十

七帖)及千八百七十九年六月三十日ノ布達(内務布達全書百三十三帖)及組合規則ノ書式

一 從來水ヲ落シ及水ヲ灌ク組合ニ關スル法律ハ(千八百四十三年二月二十八日ノ私有川ヲ使用スル規則第五十六條ヨリ第五十九條マテニ水ヲ灌ク組合ヲ定メリ且此組合規則ヲ千八百五十三年五月十一日ノ法律(普國法律全書百八十二帖)第二條ニ因テ水ヲ落ス組合ニモ適用セシメタリ不十分ニシテ且不便ナリ不十分ナリトハ左ニ掲クル箇條ヲ云フナリ

Ⓐ 從來ノ法律ニ於テハ止タ政府ノ許可ヲ得テ設ケタル組合ノミ定メタルモノニシテ土地所有者ノ間ニ契約ヲ結ンテ耕作ノ爲メ水利ニ關スル事業ヲ起サンカ爲メ組合ヲ作ラシムルモノニ非ス

Ⓑ 止タ水ヲ落シ又ハ水ヲ灌ク爲メニ組合ヲ設ケシムルノミニシテ水ヲ保存(泥ヲ浚フル)スル爲メ水岸ノ崩頽又ハ埋藏スルヲ防ク爲メ及ヒ水路ヲ設ケ又ハ改正スル爲メニ組合ヲ設ケシムルモノニ非ス

Ⓒ 又如何ナル要件アレハ強テ組合ニ入ラシムルコトヲ得ルカ及ヒ如何ナル要件アレハ土地所有者ヨリ組合ニ入ランコトヲ求メ得ル等ハ更ニ之ヲ定メサレハナリ

二 千八百七十九年四月一日ノ法律ハ專ラ耕作ノ爲メ事業ヲ起ス組合ノ編制ヲ定メ且亦公益トナル事業就中水路ヲ新築改良スル組合ノ編制ヲ定メタルナリ但其水路ニ關シテハ一般ノ利益ナキカ爲メ團結又ハ政府ニテ擔任ス可カラサル一地方限リノ事業ヲ定メタル

ナリ

三 此法律ニ於テハ私ノ組合ト公ケノ組合トニ分ツ

四 私ノ組合トハ止タ契約則關係者ノ協議ニ因テ之ヲ設クルコトヲ得而テ其組合ハ政府ノ許可ヲ要セス且政府ノ監督ヲ受ケス此組合ハ契約ニ因テ設ケタルモノナレモ法律上人ト看做スヘキ者ノ權利ヲ得ルニハ(第十條)通常裁判所ニ於テ組合登記簿ニ記入スルヲ以テ始テ其權利ヲ得ルモノトス(第十六條)此合組ノ規則ハ千八百六十八年七月四日ノ共益耕作組合ノ關係ニ關スル規則ニ因テ設ケタルナリ然レモ第二十四條以下ニ於テ社員ノ責任ヲ折衷シタリ此組合ハ互ヒノ協議ニ因テ成立強テ組合ニ入ル、コトヲ得サレハ元來僅少ナル關係者間ニ行ハル、モノナリ

五 公ケノ組合ヲ設クルニハ中央官署ノ決定ニ因テ之ヲ設クルコトヲ得(第八十二條)政府ノ監督ヲ受クヘク(第四十九條第五十條第五十一條)許可ヲ得テ法律上人ト看做スヘキ者ノ權利ヲ得(第十條)此組合ハ公益又ハ耕作ノ利益アルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス(第四十五條)

強テ組合ニ入ル、ニハ第六十五條ノ要件ニ適セサルヘカラス(第四十六條)

此組合ハ如何ナル事由アリテ設ケシムルヲ要スルカ

Ⓐ 第六十五條ノ場合ニ於ケル強ヒテ組合ニ入ラシムルコトヨリ

Ⓑ 組合ヲ設クル規則アルヨリ然レモ水利ヲ共同シテ維持スヘキコトノ必用ナルヲ知レモ一人ニシテハ法律ニ定メタル組合ヲ作ル方法

ノイハウス氏説明上

ヲモ其不十分ナル所ヲ補ヒ得ヘキ趣向ヲモ知ルコトヲ得ス且亦其關係者ヲ協同セシムル術ナケレハ此法律ニ於テハ鑑定官署ヲシテ諸關係者ヲ聞糺サシメ且其規則ヲ定メ其組合ヲ作ルニ易カラシムルナリ(第七十六條ヨリ第八十二條マテ)

◎又此法律ニ於テハ組合ノ事件ヲ管理スル方法ヲ輕便ニ定メリ(第五十四條第五十五條)

第七篇 水ニ對スル防護

水力ニ對スル防護ハ二ノ目的アリ

Ⓐ 水ノ川岸ヲ崩頽スルヲ防クコト則川岸ヲ築クコトナリ

Ⓑ 川岸ヨリシテ水ノ溢レ出ルヲ防クコト則堤防ノコトナリ

一 川岸ヲ築クコト 普國ニ於テハ未タ川岸ヲ築クコトニ付キ整備シタル

法律ナシ

Ⓐ 止タ左ニ掲クル全カラサル規則アルノミ普國法律全書一篇九章二百三十九條ニ各川岸所有者ハ其川岸ヲ築キ水ニ因テ崩ル、ヲ防ク權アリトアリ又第二百四十條ニハ川岸ノ崩ル、ヲ防ク爲メニ川岸ニ埋リ地ヲ生シ易カラシムル仕掛ヲ設クルニ非サレハ十分ニ防クコト能ハサルハ亦其仕掛ヲ設クル權アリトアリ
公ケノ川ニ於テ如此仕掛(二百四十條)ヲ設ケントスルハ故障申立ヲ爲ス者アルハ政府ノ許可ヲ得サレハ設クルコトヲ得ス(二百四十一條)

波除ゲ及ヒ其他水流ヲ變スヘキ仕掛ハ政府ノ許可ナケレハ之ヲ設クルコトヲ得ス(一篇九章二百三十條)

都テ航船ヲ妨害スルノ仕掛ハ自己ノ所有川岸ニ設クルヲ得ス
(二篇十五章六十一條)

私有ノ川ニ於テハ水流ヲ障フヘキ仕掛ヲ設ケテ隣ノ川岸所有者及
ヒ其近傍ノ住民ヲ害ス可カラス(第一篇八章九十九條)

⑧平生川岸ヲ築ク義務ハナキモノナリ水ノ經過ノ爲メ必要ナル
始テ之ヲ築ク義務ノ生スルナリ

⑨川岸ノ保存ヲ忘リ安寧公益ヲ害スルノ恐アル
ハ警察官ハ二篇十七章十條ニ從テ立入ルノ權アリ

⑩公ノ川ニ於テハ航船ノ爲メ必用ナル
ハ政府ニテ川岸ヲ築クヘキ義務アリ(二篇十五章七十九條)

⑪川岸ヲ築ク
ニ付キ争ヒアル
ハ通常裁判所ニテ裁判スヘシ止

タ
⑬⑭ノ場合ニ限リ警察官又ハ政府ニテ之ヲ處分スル權アルノミ

二 堤防千八百四十八年一月二十八日堤防規則(普國法律全書五十四帖)及ヒ千八百七十六年七月二十六日地方行政權限法百二十一帖百二十二條千八百五十三年十一月十四日ノ布告ニ因テ許可ヲ得タル
後來發スヘキ堤防組合規則ニ關スル總則(普國法律全書千八百五十三年九月三十五帖)及ヒ之ヲ施行スルニ付千八百五十三年十二月十三日ニ發シタル布達(内務布達全書二百八十二帖)

此規則ニ於テハ堤防組合ニ屬セサル堤防ト其組合ニ屬スル堤防トヲ區別セリ此規則ノケ條ハ一般ノ危害ヲ除ク爲メニ堤防ヲ築カシメ且之カ爲メ警察官ヨリシテ猶豫ナク直ニ立入ラシムルヲ目的トスルナリ

④ 堤防組合ニ屬セサル堤防

一 此規則一條ヨリ十條マテハ都テ一時川岸ヨリ溢レ出タル流レ水
及ヒ溜水ヲ定メタルモノニシテ絶ヘテ川岸ヨリ溢レ出ル水ヲ定
メタルモノニ非ス(第一條)

第一條ニ於テハ左ノ堤防ヲ區別セリ

① 水難ノ時一時之ヲ防ク方法(水止メ及ヒ其他岡ヲ築ク)

② 永久ノ水難防禦仕掛(堤防及ヒ土山ヲ築ク)

③ 所分法ヲ爲スニハ政府ノ許可ヲ要セス

④ ノ仕掛ヲ設ケ又ハ變スルニハ政府ノ縣輔佐官ノ許可ヲ要ス

許可ヲ爲シ或ハ之ヲ拒ムニハ一定ノ手續アリ(二條)及ヒ之ヲ拒ム
ニ付テハ一定ノ要件アリ(第三條)

二 政府ハ(縣輔佐官)崩レタル堤防ヲ行政執行法ヲ以テ修覆セシメ

且其保存セシムル爲メノ所分ヲ定ムル權アリ(四條及ヒ五條)

堤防ヲ建築又ハ保存スルニ付キ爭ヲ生シタル時ハ政府(縣輔佐
官)ニテ仮リニ其義務者ヲ定ムヘシ(六條ヨリ九條マテ)

三 第六條ヨリ第九條マテニ從テ假ニ堤防ヲ修復セシメル時ハ政府
ハ堤防組合ヲ作ラシムヘシ但檢査ノ上組合ヲ作ラシムルヲ必用ナ
リトセサル時ハ後來堤防ノ保存ヲ求(政府ヨリ來ルナリ)ムルヲ
得ス(第十條)

⑤ 堤防組合ニ付テハ第十一條ヨリ第二十三條マテニ其規則アリ
組合規則ヲ作ル時ニハ縣輔佐官ニテ作ル關係者ヲ聞糺スヘシ然レ
モ關係者ノ承諾ヲ要セス

ノイハウズ氏説明上

千八百七十五年四月十二日「ラーベルトリユミナール」判決ニ從ヘ
ハ(判決録七十五卷一帖)組合規則ハ關係者ノ協議ニ因テ設ケタル
モノニ非ス關係者ニ對シテハ地方規則同様ノ効力ヲ有スル者ナリ
故ニ組合規則ヲ解釋スルニハ契約ヲ解釋スル法ニ從フ可カラズ法
律ノ解釋法ニ從フヘシ

◎堤防組合及ヒ組合ニ屬セサル堤防ニ通用スル規則ハ第二十四條
ヨリ第二十八條マテナリ但千八百二十八年九月十日及ヒ三十日ノ
規則ハ千八百七十一年十二月廿一日ノ城塞ノ近傍ニ在ル土地ヲ制
限スル規則ニ因テ廢セラレタリ(獨逸法律全書四百五十九帖)

ノイハウス氏行政諸規則實施上ノ説明中

道路警察

一 普魯西國ニ於ケル道路及ヒ其建築ニ係ル法律ハ甚タ不十分ナル
モノナリ法律ヲ以テ此事ヲ定メンコトハ一般ノ望ム所ニシテ千八百
六十五年ニ道路ニ關スル規則ヲ設立センコトヲ試ミタレ其當時國王
ト下院トノ間ニ憲法ノ事ニ付キ紛議アリタルニ因リ遂ニ其功ヲ奏
セサリシナリ(草案アリ)

二 普國法律全書ハ道路ニ付キ左ノ區別ヲ爲セリ

①大道及ヒ軍人通行路トハ一地方ヨリシテ他ノ地方ニ通シ又ハ一
邑ヨリシテ他ノ邑ニ通シ又ハ一郵便局ヨリシテ他ノ郵便局ニ通シ
又ハ一國境稅關ヨリ他ノ國境稅關ニ通シ又ハ海河ニ通スルモノヲ

ノイハウス氏説明中

云フ(二篇十五章一條)

此道路ハ政府ノ共通物ニ屬シ(二篇十四章廿一條)政府ニテ之ヲ保持スヘシ(二篇十五章十一條)然レ州ノ規則ヲ以テ別ニ定メタル者ハ格別ナリ(十五條)

④團結内ノ道路(二篇七章三十七條第一)

⑤私有ノ道路(一篇二十九章六十三條以下)

此區別ハ今日ハ殆ント無益ニ屬セリ古ノ大道及ヒ軍人通行路ハ鐵道ヲ築キ或ハ掘割ヲ作りタル等ニ因リ通行ノ方法モ自カラ變化シタルニ因リ大道及ヒ軍人通行路モ之ヲ用フルコナクシテ止タ一小部ノ通行ニ用フルノミニ至レリ其内多クハ政府ヨリ公道ト爲セリ(二篇十五章十七條)其公道ハ千八百七十五年七月八日ノ法律第十

八條以下ニ從テ政府ヨリシテ州ノ所有物ト爲シ州ニテ保持スヘキモノトセリ公道ト爲サル者ハ今日仍ホ政府ノ所有ニ屬シ政府ニテ保持スヘシ然レ州規則ニ因テ別ニ定メアルモノハ格別ナリトス(以上ハ右ノ道路ノ區別ヲ云フ以下ハ現今ノ區別ヲ云フ)

三 今日ハ古ノ無用ナル區別ヲ廢シテ公ナル道ト公ナラサル道トノ二種ニ分テリ

法律ニ於テハ公道ノ意義ヲ定メス一般ニハ其意義ヲ定ムルコト能ハストセリ

然レ公道ノ意義ハ規則ニ從ヒ何人ニテモ使用スルコトヲ得ルヲ以テ公道ノ意義トス通常ハ公道ハ馬車通行路ト人行ノ路トニ分ツ實際ニ從ヘハ馬車道ニ付テハ別段ニ法律ニ定メナケレハ歩行又ハ馬

上又ハ馬車又ハ動物ヲ通行セシム之ヲ概言スレハ人ト物件ヲ通行セシムルカ爲メナルモノナリ歩行ノ路ハ止タ歩行ノミニ用フヘキモノナリ慣習ニ因テ許シタルカ又ハ法律ニ因テ許シタルニ非サレハ荷物ヲ挽キ又ハ馬上又ハ動物(牛羊等ヲ多ク曳クナリ)ヲ連レテ歩行スルコトヲ禁シタリ

馬車路ノ内ニ於テ「シヨツセ」ト云フ者ハ法律ニ於テ特權ヲ與ヘタル一種特別ノ道ナリ

四 道路建築義務

①普國法律全書二篇十五章十五條ニ因レハ大道ヲ保持スヘキ義務ニ付テハ州ノ法律ヲ以テ之ヲ定メシメタリ現ニ普國法律全書ノ行ハル、地方ニ於テハ道路建築義務ヲ定メタル州ノ法律アリ其法律

中多クハ大道及ヒ軍人通行路ノ如キ廣キ通行ニ用フヘキ道路ニ付キ政府ニテ其保持スヘキ義務ヲ負ハサレハ道路ノアル團結ニ其義務ヲ負ハシメ又兩團結ノ間ニアル道ニ付テハ其保持ノ義務ヲ兩團結ニ分ツテ負ハシメタリ例ヘハ「クールマルクブランデンブルヒ」ニ於テハ千七百九十二年四月十八日ノ布告ニ從ヒ道路建築ノ義務ヲ兩團結ニ分テ負ハシメタルカ如シ

②道路建築ノ義務トハ如何ナル義務ヲ云フカ上等行政裁判所ハ千八百七十七年五月廿六日及ヒ千八百七十八年一月九日ニ判決ヲ下シテ從來行政ノ實際及ヒ裁判所ノ判決ト同意ノ説ヲ立タリ(判決錄二卷二百六十三帖三卷百七十九帖)其説ハ左ノ如シ

一 通行ノ爲メ就中通行ヲ盛ニスル爲メ必用ナル仕掛則是迄精

巧ナル道路ヲ建築修繕シ來レリト雖モ其仕掛ト止タ通行ノ爲メ
欠ク可カラサルモノトヲ區別セリ

二 道路ヲ建築スヘキ義務ヲ有スル者ハ止タ通行ノ爲メニ欠ク可
カラサル義務ヲ盡スヘシ其義務ニ付キ精巧ナル道ト通常ノ道ト
ノ區別ヲ爲ス可カラス其義務ニ付テ注目スヘキコトハ必用ナルノ
ミニシテ如何ナル路ヲ作ルヘキカハ注目スルニ及ハス

三 故ニ義務者ハ道ノ性質ニ從ヒ通行ノ爲メニ必用ナルモノハ其場
合ニ從テ石ヲ敷キ土ヲ盛り往來ヲ便ニシ且之ヲ保持スヘキ義務
アリ又必用ナルキハ新タニ道ヲ設ケ又或ハ道ヲ廣ムルノ義務アリ
四 往來ノ爲メニ必用ナルモノ、外ハ例ヘハ通行ヲ盛ンニシ又ハ
耕作ノ利益ト爲ルヘキモノハ義務者ニ於テ之ヲ爲スニ及ハス耕

作ノ爲メニハ規則ヲ發シテ道路ノ建築ノ仕方ヲ定メ且種々ノ特
權ヲ與ヘタレハナリ

五 第三ニ掲ケタルモノハ普國法律全書ノ二篇十五章十七條ノ規
則ニ同ジキモノニシテ此等ノ規則ハ州ノ規則ヲ以テ巧ナル道路
ヲ作ルコトヲ要セサレハ變セラル、コナシ

六 從來ノ實際ニ從ヘハ道路ノ中央ニ高ミヲ付ケテ作ルコト及ヒ道
ノ兩端ニ下水ヲ作り又ハ樹木又ハ石ヲ建テ、道ノ區別ヲ爲スコ
ト桥梁渡船ヲ設ケ又ハ危害ノ場所ニ通行止ヲ設クルコトハ道路建築
義務ノ内ニ包括スルモノナリ(公ノ川又ハ私有ノ川ニ桥梁ヲ設
クルコトニ付テハ普國法律全書二篇十五章五十二條ヨリ五十四條
マテヲ參看スヘシ)

道路ヲ保持スルコノ方法ハ屢々縣内ニ警察規則ヲ發シテ之ヲ定メタリ例ヘハ「ポツタム」縣ニ於テハ千八百五十二年六月十一日ニ道路警察規則ヲ發シ之ヲ定メタルカ如シ

- 七 千八百四十四年六月十一日ノ土地買上規則三第四條及ヒ第五十條ヨリ五十三條マテノ規則ハ道路ヲ建築シ易スカラシムル爲メ設ケタルモノナリ其他従前ハ政府州縣ヨリ道路ヲ建築シ能ハサル團結ニ救助ヲ爲セリ又或ル郡ニ於テハ州規則ニ從ヒ力役物件ヲ以テ救助ヲ爲シタルコアリ然レモ千八百七十五年七月八日ノ法律ニ因テ政府ヨリ一定ノ金額ヲ州ニ與ヘシヨリ道路ニ付キ政府ヨリ救助スヘキコトハ今日ハナシ
- 五 公道建築及ヒ保持ノ監督ハ政府ニテ之ヲ爲スヘシ

道路警察ハ地方警察官署及ヒ郡長ニテ之ヲ主トルヘシ(千八百五十年三月十一日ノ法律第六條及ヒ千八百七十二年十二月十三日ノ郡規則第五十九條)公道警察ハ國內警察官署ニテ之ヲ主ルヘシ

- 六 地方警察官署ニ於テ道路ノ爲メニ爲スヘキ所分ハ千八百八十一年三月十九日ノ郡規則改正第四章ニ之ヲ定メリ其改正ニ因レハ警察官署ニ於テ立入ルヘシト認メタル中ハ命令ヲ發シテ義務者ヲシテ義務ヲ盡サシムルヲ得義務者ハ十四日内ニ故障ヲ申立ツルコヲ得其故障ハ警察官署ニ於テ裁定スヘシ其裁定ニ對シテ十四日内ニ行政裁判所ニ訴フルコトヲ得且其訴ヘハ千八百八十年七月二十六日ノ行政編制法四十四條ニ從ヘハ至急ノ場合ニ非サレハ其裁定ヲ停止スル効ヲ有セス

若シ警察署ヨリシテ命令ヲ受ケタル者ニ於テ其義務ハ他人ニ於テ公法上ヨリ負フヘキ者ト認メタルハ同時ニ他人ニ對シ訴ヲ起スヘシ

郡規則改正第四章第二條ニ從ヘハ左ノ區別ヲ爲スヘシ

①行政裁判所ニ訴フルニハ公法上ニ於テ權利アルモノト認タルハニ限ルヘシ(民法上ノ權利ハ訴フルコトヲ得ス)(千八百八十年八月二日行政裁判所編制法第一條)

②行政裁判所ニ於テハ公法上ノ義務ニ付キ終審裁判ヲ爲スヘキ者ニシテ其裁定ニ付テハ通常裁判所ニ訴訟ヲ爲スヘキヲ得ス其訴ハ止タ官署ト人民間ニ起リタルモノノミナラス警察官ノ命令ニ從ヒ已ニ盡シタル義務ヲ他人ヨリ償ハシメンカ爲メ人民間ニ

起リタル訴ト雖モ之ヲ裁判スヘシ(人民間ノ訴ハ固ヨリ公法上ノ訴ナルハニ限ル)

③警察官署ヨリシテ發シタル命令ニ對シ民法上ヨリ他人ニ其義務アリトシ行政裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

④民法上ニテ他人ニ對シ償ヲ求ル權ハ千八百四十二年五月十一日ノ法律第五條ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ之ヲ求ムルヲ得(官署ニ對シテハ償ヲ求ムルヲ得ス止タ他人ニ對スルノミ)

⑤行政裁判所ハ以上ノ場合ニ於テハ公ケノ通行ノ爲メ公道ト爲スヘキヤ否ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ス其道ノ公ケノ道ナルヤ否ノ裁判ヲ爲スヘシ

⑥行政裁判所ノ始審裁判ニ對シテハ如何ナル上訴ニテモ之ヲ爲スノイハウス氏説明中

トヲ得故ニ公ケノ通行ノ爲メニ義務ヲ盡スヘキヤ否ニ關スルハ
ノミナラス又何人カ義務ヲ盡スヘキヤ否ニ關スルハモ亦上訴ヲ
爲スヲ得

①①ニ掲ケタル公法上ノ義務ハ道路建築ノ義務ニ關スル法律(法
律及ヒ州規則)ニ從テ定ムヘシ其他公法上ノ義務ト爲スヘキヤ
ニ付定メ難キモノアリ然レモ權利義務ハ國債ト人民トノ間ナク
團結ヲ離レ又ハ結付クキヲ定ムル契約ハ公法ノ一部ト看做スモ
可ナリ

公道ノ建築ハ普國法律全書ニ於テハ政府ノ義務ト看做セリ(二
篇十五章十七條)普國ニ於テ始テ公道レノルキヲ設ケタルコトハ千七百九
十二年ニ伯林ト「ポツダム」トノ間ニ設ケタル公道ナリ其後政府

ニ於テ漸次ニ公道ヲ作テ舟ヲ航スル河及ヒ掘割ト結ヒ付ケテ國
内ノ通行ヲ便利ニセリ(二篇十五章一條)公道ハ鐵道ヲ設立セシ
以來ハ國內通行ノ道タル性質ヲ失ヘリ(伯林ヨリ「ポツダム」ニ始
テ鐵道ヲ設ケシコトハ千八百三十八年ナリ)

今日ニ至テハ鐵道ノ通行ハ益々盛大トナリテ公道ハ止タ國內一
小部ノ通行ノ用トナレリ

政府ニ於テ公道ヲ設立シ以來政府ヨリ郡又ハ團結又ハ人民ニ
(無名會社)扶助金ヲ給シ(通常ハ一里ニ付キ六千「マルク」ヨリ三
万「マルク」ヲ給セリ)且道路通行錢ヲ取立ル許可ヲ爲シ公道ヲ作
ラシコトヲ勸獎セリ然レモ扶助金及ヒ通行錢ヲ取立ル權ハ如何ナ
ル起業ニテモ之ヲ與フル譯ニ非ス政府ニテ公道ノ通行ノ爲メ必ス

設立スヘキモノト認メ又建築法ニ定メタル要件ニ適ヒ且續テ道ヲ保持スヘキ見込ナキハ之ヲ與ヘス（故ニ無名會社ハ從來ノ實驗ニ因レハ此要件ヲ能ク守レリ）

往來ヲ便利ニスルコトハ誠ニ緊要ナルコトヲ一般ニ知來ルカ爲メニ郡ニテ建築ノ義務ヲ漸次ニ負ヘリ或ハ政府ノ扶助ヲ得テ公道ヲ設ケ或ハ公道ヲ設クル團結ニ救助金ヲ與ヘ或ハ政府ノ扶助ヲ受ケ又ハ受ケスシテ已ニ政府ヨリ設ケタル公道ノ保持ヲ擔任シタリ

然レモ郡ノ費用ヲ以テ公道ヲ作ランコトヲ企テタレモ郡内各地方ノ自慙ノ爲メ屢々其業ヲ起スコト能ハサリシナリ何トナレハ各地方ニ於テ各自カラ先キニ其地ニ公道ヲ作ランコトヲ欲シ之カ爲メ

爭ヲ生シ終リニ作ルコト能ハサリシナリ然ルニ現今ハ一方法ヲ考ヘ先ツ郡内ニ設クヘキ線路及ヒ其順序ヲ定ムルコトニ爲セリ此方法ハ大ニ實功ヲ得タリ

又今日ハ鐵道ノ増加シタルニ從ヒ公道ハ國內通行ノ爲メニハ無用ノモノトナリ止タ一部ノ用トナルヲ以テ政府ハ公道建築ノ義務ヲ州ニ委ネタリ則千八百七十五年七月八日ニ法律ヲ發シ千五百万ノ年金ヲ給シ公道ノ所有權ト管理ヲ州ニ交付セリ（法律第十八條）

又其法律第一條ヨリ第三條ニ掲ケタル金額ヲ給シテ已ニ政府ニテ設ケタル公道ノ修繕及ヒ郡團結ノ道路建築ヲ救助シタリ故ニ現今ハ政府ハ止タ政府ノ利益ノ爲メニ公道ヲ設クルノミニシテ

是迄與ヘタル扶助金ハ一切之ヲ給セス然レモ道路監督權ハ仍ホ今日政府ニ屬セリ州ニ於ケルモ亦政府ノ監督ヲ受ケリ公道ヲ建築スルコトニ付テハ屢々政府ヨリ建築方法及ヒ保持方法ヲ定メシコアリ(千八百七十一年五月十七日ニ最終ニ發セリ)現今ハ其法律ノ効力ナシト雖モ州ニ於テハ其方法ヲ基本トシテ公道ヲ設ケリ又政府ト雖モ公道ノ監督權ヲ有スルヲ以テ是迄多年ノ實驗ニ基キ作りタル方法ニ背テ公道ヲ作り通行ヲ不便ナラシムルモハ政府ハ之ヲ黙止セサルヘシ公道及ヒ通行ニ便利ナル保持ニ付テハ左ニ掲クル布告アリ

①千八百三十九年三月十七日ニ發シタル人工ヲ以テ作りタル道路ノ通行ニ關スル布告(普國法律全書八十帖)

②千八百四十年二月廿九日ニ發シタル布告ノ附錄第七條ヨリ第二十條マテ其布告ハ通行錢ノ表ヲ定メタルモノナリ(法律全書九十四帖)

③千八百四十年四月十二日ニ發シタル布告千八百三十九年三月十七日ノ布告ヲ改正シタルモノ(法律全書百八帖)

④千八百四十四年六月七日ノ規則公道警察規則ニ背キタル者及ヒ通行錢ヲ拂ハサル者ノ處分ヲ定メタルナリ(法律全書百六十七帖)

⑤千八百五十三年三月十二日ノ法律(法律全書八十七帖)
通行錢ヲ取立ルカ爲メ千八百四十年二月廿九日ニ布告ヲ發シテ其表ヲ定メリ(法律全書九十四帖)(其表及ヒ附加規則ニ付テハ

一條ヨリ六條マテヲ見ルヘシ

政府ノ入用ヲ以テ作りタルニ非サル公道所有者ハ政府ヨリシテ
 通行錢ヲ取立ル權ヲ與フルコアリ常ニ通行錢ヲ取立ルニハ政府
 ニテ取立ル通行錢ノ規則ニ從フヘシ千八百七十四年五月廿七日
 ノ法律(法律全書百八十四帖)ハ政府ニテ通行錢ヲ取立ルコヲ廢
 止シタリ然レモ通行錢ニ關スル規則ハ當時仍ホ公道ニテ通行錢
 ヲ取ル權ヲ有スル者及ヒ後來其權ヲ有スヘキ者ニモ適用スヘシ

公道警察

公道警察ハ公道ヲ保護シ其保持ヲ爲サシメ且其通行ヲ妨ケサラシ
 メ規則ニ從テ通行錢ヲ取立シムルコトハ地方警察官ノ權限ニ非スシ
 テ國內警察官ノ權限ニシテ郡長之ヲ主トルヘシ(千八百七十八年

二月十一日ノ上等行政裁判所判決判決錄三卷三百五十四帖)

千八百四十年二月二十八日ノ布告千八百三十二年八月三十一日ノ
 布告ヨリシテ明カナルカ如ク千八百四十年ノ布告ノ附錄第七條ヨ
 リ第二十二條ハ一切ノ公道ニ適用スヘシ故ニ公道警察ハ一切ノ公
 道ニ及フコト明カナリ

公道ト云フ者ハ如何ナル者ヲ云フカハ場合ニ因テ定ムヘシ故ニ公
 道タルノ性質ハ數回砂石ヲ以テ固メ兩傍ニ樹木ヲ植フルヲ以テ其
 性質トセリ

分等稅及ヒ分等收入稅

千八百十一年九月七日ノ國家ノ理財及ヒ租稅ニ關スル布告第六條
 ニ因テ邑郷ニ非サル所及ヒ小邑ノ爲メニ一ケ年ニ一「マルク」五十

ノイハウス氏說明中

「ヘニヒ」ノ人頭税ヲ取立テリ其税ハ滿十二歳以上ノ者ハ何人ニテモ之ヲ拂フ可キモノトセリ(普國法律全書二百五十三帖)

此人頭税ハ千八百二十年五月三十日ノ法律ニ因テ五等ニ分チタル分等税ニ改正セリ(普國法律全書百四十帖)此税ハ滿十四歳以上ノ人民ハ盡ク之ヲ拂フヘシ然レモ貧窮人及ヒ軍人及ヒ千八百二十年五月三十日ノ法律ニ因テ肉税穀物税ヲ科スル邑郷ノ人民ハ此限ニ在ラス(普國法律全書百四十三帖)

其税ハ左ノ如キ等級ニ分テ取立リ

日稼従僕ハ五等ニ於テ

下等人民及ヒ農民ハ四等ニ於テ

中等人民ハ三等及ヒ二等ニ於テ

上等人民ハ一等ニ於テ取立リ

小ナル土地所有者又ハ小ナル營業者アル所ニ於テハ四等ト五等ノ間ニ別ニ一等ヲ設ケリ

以上ノ分等税ハ戸主ニ課スヘシ

戸主ニ屬セス且一家ヲ立テサル者ハ其等級ノ税額ノ半額ヲ拂フヘシ

此分頭税ハ一等ニ屬スル者ハ百四十四「マルク」二等ニ屬スル者ハ七十二「マルク」三等ニ屬スル者ハ三十六「マルク」四等ニ屬スル者ハ十二「マルク」五等ニ屬スル者ハ何人タリトモ戸主ト戸主ニ非サルトニ拘ハラズ一人ニ付キ一「マルク」五十「ヘニヒ」ヲ取立ヘシ此等級ノ分チ方ノ不十分ナル「ハ明カニシテ之カ爲メ漸々ニ十二等ニ分

ツコニ成レリ最上高ヲ拂フ者ハ一年ニ四百三十二マルクヲ拂フ
トナレリ

千八百五十一年五月一日ニ分等税及ヒ分等收入税ノ法律ヲ發シテ
全ク以上ノ税ヲ廢セリ(普國法律全書百九十三帖)現今ノ
法ナリ

此法律ハ千八百二十年五月三十日ノ肉税及ヒ穀物税ノ規則ヲ廢セ
スシテ(一「チエント子ル」ノ小麥ヨリハ二「マルク」一「チエント子ル」
ノ大麥ヨリハ五十「ヘニヒ」一「チエント子ル」ノ肉ヨリハ三「マルク」
此税ヲ拂ハサル地方ニ於テハ十二等ニ分チ其收入ノ一年ニ三千
「マルク」ヲ越エサル者ヨリ一「マルク」五十「ヘニヒ」ヨリ七十二「マル
ク」マテノ分等税三千「マルク」以上ノ收入ヲ有スル者ヨリ三十級ニ
分チ九十「マルク」ヨリ二万六千六百「マルク」マテノ分等收入税(收入

ノ百分ノ二半ヨリ三マテノ割合)(肉税及穀税ヲ課スル地方ニ於テ
ハ分等税六十「マルク」ヨリ課スヘシ)六十「マルク」以
下ハ科セス

此分等税ト分等收入税ノ異ナル所ハ分等税ハ從來ノ如ク人民ノ職
業ノ異ナルト貧富ノ異ナルト有力ト無力ト(法律第七條子供ノ多キ
トカ厄介多キトカ長病
カ)ニ從テ等級ニ分テ課スレド分等收入税ハ有力ト無力トニ拘ハラ
ス其收入ニ因テ課スルナリ(法律第十六條ヨリ第十九條マテ)

其後等級ヲ分テ分等税ヲ取立ツコニ付キ大ニ困難ヲ生セリ就中中
等以上ノ郷邑ニ於テハ實際ハ分等收入税ヲ分等税ノ如ク取立ルコ
ニ成レリ又郷邑ニ非サル所ニ於テモ人民ヲ等級ニ分ツコ能ハサル
場合ヲ來セリ然ノミナラス年々肉税穀税ヲ廢スヘキ輿論ヲ來タシ
終ニ千八百七十三年五月廿五日ニ二ノ法律ヲ發シテ肉税穀税ヲ廢

スルコトニ成レリ(法律全書二百十三帖ト二百二十二帖)此法律ハ

④肉税穀税ヲ政府ノ租税ヨリ廢シテ止タ團結ノ税トシテ肉税ノ

ミヲ課スルコトヲ許シ(現ニハ止タ「ボツダム」ト其外一二ヶ所ノ

ミ)

⑤分等税ハ從來肉税穀税ヲ拂ヒタル地方ニモ之ヲ課スルコト爲

シ其定額ヲ四千二百十萬「マルク」ト定メタリ

⑥分等收入税ハ略々從來ニ異ナラサレモ其等級ヲ從前ノ等級ノ

間ニ増加シ(從前ハ三十級ナレモ改正ニテハ四十級トナレリ)

且一等二等ハ無力ナル者ニハ分等税ノ如ク減税セリ

分等税ノ賦課及ヒ取立ノコト此事ニ付テハ左ノ法律ナリ

一 千八百五十一年五月一日ノ法律(法律全書百九十三帖)

二 千八百七十三年五月廿五日ノ二ノ法律(法律二百十三帖二百二十二帖)

三 千八百七十四年一月二日ノ法律(法律全書九帖)

四 千八百七十五年六月十六日ノ法律(法律全書二百三十四帖)

五 千八百七十六年六月二十三日ノ法律(第九條法律全書百六十九帖)

六 千八百七十七年三月十二日ノ法律(法律全書十九帖)此法律ニ付キ左ノ布達ヲ發セリ

一 千八百七十三年五月廿九日ノ分等税ヲ賦課スルコトニ付キ布達
二 千八百七十三年十二月十二日ノ分等税取立ニ付キ布達

分等税ヲ賦課スルニハ各團結ニ賦課スヘシ其他ハ分等收入税ノ如

ノイハウス氏説明中

ク収入ニ從テ賦課スヘシ(千八百七十三年五月廿五日ノ法律第七條)如何ナルモノヲ收入ト看做スヘキヤ及ヒ其高ヲ評定スル方法ハ法律ニ於テ明文ナシ然レモ固ヨリ分等税モ收入ヨリ取立ルモノナレハ分等收入税ノ賦課法ニ從フヘキモノナリ(同法律第十九條)故ニ分等收入税ハ獨立スル收入ノミニ科スルモノニシテ千八百五十一年五月一日ノ法律第十九條ニ掲ケタル收入則土地貯金年金ヲ求ムル權利如何ナル性質ヲ問ハス得ル所ノ利益又ハ營業其他ノ事業ヨリ得ル所ノ利益等ニ限り課スルコトヲ得ルナリ(千八百七十三年五月廿九日ノ布達四條)

此收入ノ高ヲ評定スルニハ同法律ノ第二十八條ヨリ第三十條マデノ規則ニ從フヘシ則第二十八條土地ノ收入トハ税ヲ拂フヘキ者ノ所有スル土地ノ上リ高又ハ土地附着ノ權利ヲ有スルカ爲メ得ル所ノ收入

土地ヲ貸シタル者ハ其地代ヲ收入トス但現物ニテ納ムル者及ヒ使用權ヲ有スレハ其價ヲ收入ニ算入シ及ヒ貸シタル者ニテ土地附着ノ義務ヲ負擔スレハ其義務ヲ除クヘシ

貸付ケサル土地ノ收入ハ所有者カ前三年間ニ得タル純益ノ平均ヲ取テ定ムヘシ

邑郷ニ非サル所ニ(田舎)於テ製造場ノ別場ヲ設ケタル所(例ヘハ燒酎ヲ製造シ麥酒ヲ醸シ又ハ水車又ハ煉化石ヲ燒ク所等)ニ於テハ本製造場ノアル土地ニテ其收入ヲ算入セサリシ并ハ三年間ノ純益ノ平均ニ因テ定ムヘシ石坑又ハ石炭石版ヲ掘取ル所金銀分析

所ニ於ケルモ亦同

貸付ケスシテ所有者自カラ住居スルカ又ハ其他ノ用ニ使用スル家屋ハ其地ノ慣習ノ借家料ニ平均シテ其收入ヲ定ムヘシ

土地ニ附着スル義務及ヒ租税并ニ書入其他負債ノ利息ハ之ヲ收入ヨリ扣除スヘシ然レモ負債ニ付テハ其債主ノ氏名住所契約書ノ年月日ヲ證明スヘキコアリ

第二十九條 貯金ノ收入トハ私ノ負債主ヨリ又ハ政府又ハ政府ノ銀行貯金預リ所等又ハ公立會社又ハ外國ノ政府等ヨリ得ル利息ヲ云フナリ又年賦金又ハ之ニ類スル契約等ニ因テ得ル金額現物其他ノ利益ヲ含蓄セリ

年賦金又ハ利息ハ公ケノ有價證書又ハ相互ノ貸付ヨリ成ル資本金

ニ於テ税ヲ課スヘキモノトス此年賦金及ヒ利息ハ一様ニ繼續シテ入ラサルカ又ハ無名會社ノ純益分配ノ如ク年々一定セサルモハ前年ニ得タル高ニ依ルヘシ此收入ヨリ引去ルヘキ負債ノ利息ニ付テハ第二十八條ノ末項ニ從フヘシ商人營業者ノ貸付又ハ負債ニ付テハ次條ニ從テ定ムヘシ

第三十條 商業營業貸付其他ノ事業例ヘハ政府又ハ團結ノ官吏又ハ醫師又ハ代言人又ハ著述者等ノ得ル收入ト及ヒ退隱料休職料ノ收入ニ付テハ左ノ箇條ニ從フヘシ但動産又ハ不動産ヨリ得ル年金ハ此限ニ在ラス(前條ニ入ルナリ)

商業營業貸付等ヨリ得ル利益ハ三年間其事業ノ繼續スルモハ其平均ニ從テ定ムヘシ但其事業ノ費用トシテハ家屋建築物器具等

ノ破損ノ外ニ從來ノ如ク事業ヲ爲ス爲メニ費スヘキモノヲ引去
ルヘシ故ニ活計ノ入用ニ充ツル爲メ或ハ事業ヲ廣メ又ハ改良ス
ル爲メニ費シタルモノハ引去ル可カラズ

一定ノ收入ハ其全額ニ依ルヘシ(俸給ノ類)法律上ニテ寡婦救助貯蓄所

ニ出金スヘキ義務アル者ハ其俸給又ハ退隱料ヨリ引去ルヘシ

官宅及ヒ官有地ノ俸給外ニ受クル者ハ慣習ノ借屋料又ハ地代ニ

因テ收入ヲ定ムヘシ(官宅官有地ニ無賃ニテ住スルヲ以テ其金ヲ收入ト看做シ稅ヲ課スルナリ)職務上

ノ費用ニ供スルモノハ俸給ノ内ヨリ引去ルヘシ私ノ負債ノ利息

ヲ引去ルコトニ付テハ第二十八條ニ從フヘシ

分等稅ヲ拂フヘキ者トハ普國內ノ住民ニシテ其收入四百二十「マ

ルク」以上三千「マルク」以下アル者ヲ云フ

此稅ヲ免スル者ハ千八百七十三年五月廿五日ノ法律第一章第五條

ニ掲ケタルモノナリ此稅ヲ課スル者ハ(千八百五十一年五月一日

ノ法律第八條)通常戶主(若シ婦女ノ戶主ナルキハ其婦女)及ヒ飲

食衣服ヲ給スル者ヲ合シテ課スルナリ其家屬ニ別段ノ收入アルキ

ハ其收入ハ戶主ノ收入ニ算入スヘシ

賦課スルニハ千八百七十三年五月廿三日ノ法律第一章七條及ヒ千

八百七十五年六月十六日ノ法律ニ定メタル等級ニ從フヘシ賦課ノ

手續ハ三様ニ分レリ

一 團結會(團結總代會)ヨリ選ヒタル委員ニテ各納稅者ヲ評定ス

ルコト其長ハ團結ノ長タルヘシ(千八百七十三年五月廿三日ノ法

律第十條①一項ヨリ五項マテ)

ノイハツス氏說明中

- 二 郡長ニテ其評定ヲ檢査スルコト(同法律十條六項)
 - 三 縣廳ニテ其評定ヲ確定スルコト(同法律十條④六項)
- 賦課ノ手續ハ團結長ニテ先ツ人員調ヲ爲スヘシ(千八百七十三年五月廿九日指令第二條)人員調ヲ爲スニハ種々ノ法アリ小ナル團結ニ於テハ官吏カ家毎ニ就テ其調ヲ爲シ大ナル團結ニ於テハ書式ヲ定ムル端紙ヲ家主ニ送廻シテ之ニ詳細ヲ記載セシムヘシ(千八百五十一年五月廿一日ノ法律第十二條)人員調ニ因テ稅ヲ拂フヘキ者ハ分等稅表ニ掲クヘシ(千八百七十三年五月廿九日ノ布達第二條)此分等稅表ハ其地ニ住居スル者ヲ證明スル爲メナリ其表ニハ前年ニ於テ分等收入稅ヲ課セラレタル者ヲ附記シ其他稅ヲ免ス可カラサル者ハ收入ヲ評定シテ掲クヘシ(同布

達六條)團結長ハ各人ノ財産ヲ熟知セシ如ク掲クヘシ

郡長ハ同布達第十三條ニ從テ其表ヲ檢査シ縣廳ハ千八百七十三年五月廿五日ノ法律第十條④七項及ヒ同布達ノ第十四條ニ從テ之ヲ確定スヘシ

縣廳ニテ確定シタル稅表ニ從テ其稅ヲ取立ツヘシ故障ヲ申立ルモ其稅ノ支拂ヲ停止セス(千八百七十三年五月廿五日ノ法律十

四條⑤)

故障

故障ハ稅表ヲ公告シタル後二ヶ月内ニ郡長ニ申立ヘシ郷ニ於テハ郷長ニ申立ヘシ

其故障ハ賦課委員(故障委員)ノ意見ヲ聞キタル上縣廳ニ於テ之ヲ

ノイハツス氏說明中

決定スヘシ

縣廳ニ於テ故障委員ノ意見ニ反シテ裁定ヲ爲スニハ分等收入税ヲ賦課スル縣ノ委員ノ裁定ヲ乞フヘシ(千八百七十三年五月廿五日ノ法律第十四條④⑤及ヒ千八百七十五年六月十六日ノ法律四章)

控訴

其故障ノ裁定ニ對スル控訴ハ四週間内ニ大藏卿ニ差出スヘシ其控訴ハ縣廳ヨリ縣委員ニ對シテモ爲スコヲ得(千八百七十三年五月十五日法律十四條ノ①)大藏卿ハ賦課委員又ハ故障委員ノ意見ニ必シモ從フコヲ要セス全國同等ニ其税ヲ課スルニ必要ナル所ニ從テ決スヘシ故障及ヒ控訴ニ付テハ千八百七十三年十二月十二日ノ分等税取立布達ノ第十二條ヨリ第十七條マテヲ見合スヘシ

取立

毎年六月一日マテニ大藏卿ハ賦課ノ決定及ヒ四千二百十萬マルクノ定額ニ從テ取立ツヘキ税高ヲ公告スヘシ此税額ヲ計算スルコトニ付テハ千八百七十三年五月廿五日ノ法律六條ノ三項五項ヲ見合スヘシ人ノ出入又ハ不足免税ニ因テ臨時ニ生スル税ノ増減ハ豫算定額ヲ決スルルキ之ニ注目セス税ハ毎月八日マテニ前拂ヲ爲スヘシ然レモ千八百七十三年五月廿五日ノ法律第四章ニ從ヒ大藏卿ハ二ヶ月又ハ三ヶ月毎ニ仕拂ヲ爲スヘキコトヲ定メタルルキハ此限ニ在ラス(二ヶ月ト定ムルルキハ二ヶ月ノ始メニ其月ト前月ヲ取ルヘシ三ヶ月ナルルキハ三月ノ始メニ其月ト前二ヶ月分ヲ取立ツヘシ)

東ノ州ニ於テハ團結ニテ其稅ヲ取立シメ其費用トシテ惣稅高ノ百分ノ六ヲ團結ニ給ス其他ノ州ニ於テハ政府ノ取立掛ニテ取立ツヘシ此場合ニ於テハ團結ハ賦課費用トシテ百分ノ三ヲ受クヘシ(同法律第十五條千八百七十三年十二月十二日ノ布達一條)不足并人ノ増減ニ付テハ同布達ノ一條ヨリ十一條マテヲ見合スヘシ

分等收入稅

分等收入稅ハ定額ナシ其評定ハ分等稅ト同様ニ爲スヘシ其異ナル所ハ止夕初ノ一二等ニ於テ無力ナルヤ否ヲ酌量スルナリ其等級及ヒ各級ノ稅高ハ千八百七十三年五月廿五日ノ法律第二十条ニ掲ケリ

之ヲ賦課スルコトハ委員ヨリシテ郡ニ賦課スルナリ其委員ハ郡會又

ハ鄉會ニテ選ヒ其長ハ縣廳ヨリ任命ス(同法律二十一條)

長ハ收入ノ高ヲ評定シ其高ニ從テ各納稅者ニ賦課シ之ヲ收入稅表ニ掲クヘシ

長ハ評定委員ノ決定ニ對シ縣委員ニ控訴ヲ爲スノ權アリ

各納稅者ニハ各別ニ其評定ヲ通知スヘシ各納稅者ヨリハ二箇月内ニ評定委員ニ故障ヲ申立ルコトヲ得若シ拒ミタル裁定ヲ爲シタル

ハ縣委員ニ故障ヲ申立ルコトヲ得縣委員ハ終審ノ裁定ヲ爲スヘシ

縣委員ハ州會ニ於テ之ヲ選フヘシ其長ハ大藏卿ヨリ之ヲ命ス縣委員ノ裁定ハ終審ナリトス

大藏卿ハ同法律三十一條ニ從テ租稅ノ賦課ヲ監督セリ其租稅ハ每月初ニ前拂ヲ爲スヘシ千八百七十三年五月廿五日第三章(免稅減

税ノコノ外ハ納税者ヨリ直チニ政府出納局ニ納ムヘシ評定ノ手續ニ付テハ千八百七十七年三月四日ニ省ヨリ指令ヲ發シタリ

土地税

土地税ハニアリ

Ⓐ建築物及ヒ建築物ノ間ニ在ル土地及ヒ一「モルゲン」ヲ越エサル庭園(家屋ニ屬スル庭園ナリ)ヨリ拂フヘキ税(之ヲ家屋税トス家屋ノ内ニ含テ地税ヲ取ルナリ)

Ⓑ其他收入アル土地ヨリ拂フヘキ税則チ眞ノ地税ナリ(千八百六十一年五月廿一日ノ地税改正規則第一條普國法律全書二百

五十三帖)之ヲ地
税トス

家屋税ハ千八百六十一年五月廿一日ノ家屋税規則ニ從テ之ヲ課シ

地税ハ千八百六十一年五月廿一日ノ地税改正規則ニ從テ之ヲ課ス(普國法律全書二百七十七帖及二百五十三帖)此ノ法律ハ千八百六十六年ニ得タル地方ニモ施行シタリ則チ千八百六十一年五月廿一日ノ地税改正規則ハ千八百七十年二月十一日ノ法律ヲ以テ施行シタリ(普國法律全書八十五帖)千八百六十一年五月廿一日ノ家屋税規則ハ千八百六十七年四月廿八日五月十一日及ヒ六月四日ノ布告ヲ以テ施行シタリ(普國法律全書五百三十八帖五百四十三帖五百九十三帖及ヒ七百六十一帖)

地税ハ一定ノ金高ニ定メリ則チ三千万「マルク」ト定メリ此金高ハ千八百六十六年以前ノ舊キ州ノ爲メニ定メリ(千八百六十一年五月廿一日ノ法律第三條ニ定メリ)新ニ得タル州ノ爲メニハ九百六十

万「マルク」ト定メリ（千八百七十年二月十一日法律第二條ニ定メリ）此二税ヲ合セハ三千九百六十五「マルク」ト爲レリ此高ハ一定シテ動カサルモノナリ止タ土地ノ免税ト爲ルカ又ハ免税ノ土地カ有税ノ土地ト爲ルニ非サレハ止タ法律ヲ以テ之ヲ改正スルヲ得ルノミ（千八百六十一年五月廿一日ノ法律第三條）

地稅ハ土地ノ純益ニ從テ課スヘキモノナリ（同法律第三條）

純益トハ如何ナルモノナルカハ此法律ニ附録スル指令第三條ニ掲ケリ（普國法律全書二百五十七帖）此指令ニ從ヘハ純益トハ土地ヨリ生スル一切ノ所得ヨリ雜費ヲ引去リタル者ヲ云フ

純益ヲ定ムルニハ土地ノ使用方耕作ニ用ユルカ花園ニ用フルカ森林ニ用フルカ及地質ノ善惡沙地子バ地赤地ニ從テ定ムヘシ（指令第四條）

土地ヲ評定スル爲メ各郡又ハ郡内ノ一部ノ爲メカラツシヒカチヲニ分ツ其土地ノ等級表ヲ作ルヘシ其表ハ郡又ハ其一部ニ於ケル使用方及ヒ善惡ヲ掲クヘシ（其等級ハ八級ヨリ多ク分ツヲ得ス）且其表ニハ使用方ニ從テ土地ヨリ得ル純益ヲ「モルゲン」毎ニ金額ヲ以テ評定スヘシ（「モルゲン」トハ二十五半「アツケル」ニ當ル）（指令六條七條）

其評定手續ニ關スル官吏及ヒ委員（指令九條ヨリ十七條マテ）等級表ヲ作ル手續ハ指令第二十三條ヨリ第三十三條マテ（純益ヲ評定スル手續ニ非ス）

郡内ノ景況ヲ詳細ニ記スルコトハ同第二十三條等級表ヲ起草スルコトハ第二十四條純益ノ等級表ハ第二十五條郡内ヲ區ニ分ツコトニ付テ

ハ第二十六條郡内ヲ巡覽シテ調書ヲ作ルコトニ付テハ第二十七條土地ノ善惡使用方及ヒ其所有者ノ表ヲ作ルコトニ付テハ第二十八條縣委員ニ差出シ縣委員ニテ審査スルコトニ付テハ第二十九條表ヲ公告シ及ヒ之ニ對シ故障ヲ申立テ及ヒ賦課委員縣委員ニ於テ意見ヲ述フルコト中央委員ニ差出スコト及ヒ之ヲ決定スルコトニ付テハ三十二條三十三條

此決定ハ仮リノ決定ニシテ都テ全國ノ土地ヲ等級表ニ評定シタル後中央委員ニテ終審ノ決定ヲ爲スヘシ(第五十條)何トナレハ全國ノ評定ヲ爲シタルハ各郡ノ評定ヲ比準スルコトヲ得レハナリ評定ハ中央委員ヨリ決定シタル表ニ從テ團結毎ニ評定掛二人ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ其掛ニハ測量方二人ヲ附シ評定ヲ地圖面ニ記載

セシム(第三十四條ヨリ第四十四條マテ)

故障申立ノ手續ニ付テハ四十五條ヨリ四十七條マテヲ見ルヘシ評定ノ結局ニ付テハ四十八條ヨリ五十一條マテヲ見ルヘシ
 評定シタル後中央委員ニテ等級表ヲ決定シタル上ハ國王ヨリ先ツ布告ヲ發シテ東六州ノ爲メニ法律ヲ發シテ其地稅總高ヲ(三千)各人ニ賦課スルコトニ定メタリ(法律八條及ヒ九條)之カ爲メニ千八百六十四年十二月十二日ノ布告及ヒ千八百六十七年二月八日ニ法律ヲ發シタリ(普國法律全書六百七十三帖百八十五帖)千八百六十四年十二月十二日ニ西ノ二州ニ關シ布告ヲ發シタリ(法律全書六百八十三帖)又總州ノ爲メニ千八百六十七年二月七日ニ法律ヲ發シ地稅ヲ賦課スル費用ヲ政府ニテ擔當セリ(法律全書二十六帖)

舊キ州ト新シキ州トノ間ニ賦課法ノ異ナルアリ舊キ州ニ於テハ千八百六十一年五月廿一日ノ法律ニ從ヒ村里ニ賦課シテ各人ニ賦課セス(指令第四條)各人ニ賦課スルコトハ千八百六十五年一月一日マテ之ヲ延フヘシト信セリ着手後追々抄取り千八百六十五年一月一日マテニ各人ニ賦課スルマテノ手續終ハリタリ新キ州ニ於テハ最初ヨリ各人ニ賦課スヘシト定メタリ(千八百七十年二月十一日ノ法律第七條)此七條ニ從ヘハ各所有者ノ土地ヲ評定スレハ千八百六十一年五月廿一日ノ法律ヲ改正スヘキコトニ成レリ其改正ハ千八百七十年二月十一日ノ法律ニ定メリ

然レモ千八百七十年二月十一日ノ法律ニ定メタル期日マテニ其手續ヲ終ルコト能ハサリシナリ(千八百七十四年四月三日ノ法律ヲ見

合スヘシ普國法律全書五帖)

地稅ヲ今日マテ維持シテ課スルニハ千八百六十七年二月八日ノ法律ノ三十二條ヨリ三十九條マテヲ見合スヘシ(法律全書百八十五帖)

家屋稅規則千八百六十一年五月廿五日
發法律全書三百十七帖

家屋稅ハ建築物家屋間ノ餘地及ヒ「モルゲン」已下ノ庭園ニ課スヘシ(千八百六十一年五月廿一日ノ地稅規則第一條法律全書二百五十三帖)

家屋間ノ餘地及ヒ庭園ニハ地稅ヲ課セスシテ家屋稅ヲ課スル所以ハ其土地ノ價ハ家屋ニ附屬スルニ因テ生シ又家屋ノ價ハ其土地ニ

ノイハウス氏説明中

因テ土地ノ價ハ家屋ニ因テ増加スルカ故ナリ
 庭園ノ意義ハ千八百二十八年二月一日ノ家屋稅賦課法ニ係ル布達
 ノ第七條第八條ニ掲ケタリ
 家屋稅規則ニ於テ建築物トハ如何ナルモノヲ謂フカハ同布達ノ第
 三條第四條又家屋間ノ餘地トハ如何ナル者ヲ謂フカハ同布達第五
 條第六條ヲ見ルヘシ
 家屋稅ヲ免スヘキ者ハ家屋稅規則第四條ニ掲ケタル建築物ニ限ル
 ヘシ(同布達第九條ヨリ第二十一條マテ)
 家屋稅ハ家屋稅規則第四條ニ因リ使用價則チ其第六條ニ掲ケタル
 如ク總使用價ニ從テ賦課スヘシ(同布達第二十八條ヲ見ルヘシ)前
 項ノ趣意ハ左ノ如シ

立法官ノ趣意ニ因レハ(千八百六十一年五月廿一日地稅規則第一
 條)土地ハ或ハ家屋稅或ハ地稅ヲ賦課スヘキモノナリ其兩稅ハ取
 立法ニ於テ異ナレモ其賦課高ハ平等タルヘシ地稅ハ勿論其純益ニ
 因テ取立ルコトヲ得始メ家屋稅ヲ課セントシタルモ亦純益ヨリ取
 立テント欲シタレモ家屋ノ純益ヲ調査シ難キカ爲メ一般ニ規則ヲ
 設ケ其總益ト純益トノ權衡ヲ定メント試ミタリ終ニ家屋ノ維持費
 ハ(維持費トハ破損シタルモ新築スル費用ヲ次第ニ貯金スル金額
 ヲモ含蓄ス)總益ノ半額ト評定スルモハ家屋所有者ニ對シ損害ヲ
 蒙ムラサルヘシト信シタリ

又地稅ハ其純益百分ノ八ニ相當スル者ナレハ家屋稅ニ於テ其純益
 ノ百分ノ八(總益ノ半額ニ當ル)トスルモ又總益ノ百分ノ四トスル

モ其金額ハ平等ナルヘシト雖モ總益百分ノ四トスルハ數方ノ建築物ニ係ル割算ノ半數(總益ヲニニ因テ割ルコト云フ)ヲ省クヲ以テ之ヲ目安ト定メタリ

家屋稅額ハ總益ノ百分ノ四又ハ百分ノ二ナリトス(家屋稅規則第五條及ヒ其布達二十二ヨリ第二十六條マテ)

如此ニ様ノ目安ヲ定メタルハ製造場等ノ如キ專ハラ營業ニ供スル建築物ハ貸付クルコトナキヲ以テ住居借家賃ニ準シテ其使用價ヲ評定スヘキニ其評定ハ實價ニ非スシテ大ニ之ヲ超過スルヲ以テ其權衡ヲシテ平等ナラシメンカ爲メ營業ニ供スル建築物ニハ其使用價百分ノ二ト定メタリ

郷及ヒ多クノ住家ヲ有スル村ニ於テハ毎年平均ノ貸付價ニ因テ價ヲ定ムヘシ其貸付價ハ十年已來鄉村ニ於テ現ニ貸付ケタル借家料ノ平均高ヲ以テ計算スヘシ(家屋稅規則第六條其布達三十五條ヨリ四十條マテ)

家屋稅ヲ賦課スルニ當リ營業ニ供スル建築物(百分ノ二ヲ目安ト爲シタルモノ)ハ全ク之ヲ貸付クルコトナク且多クハ(例ヘハ石灰竈鑄物場等)住家ノ貸付ケ料ニ準シテ其使用價ヲ定ムルコト能ハサルヲ發見シタリ故ニ布達第六十二條ヨリ第六十五條マテニ掲ケタル賦課法ヲ定メ十七年來之ヲ實施スルモ更ニ不都合ヲ見出サ、リシ村ニ於ケル住家ハ其使用價ヲ有セサルモノアリ何トナレハ全ク其住家ヲ貸スコト甚タ稀ナレハ其貸付ケサルモノ、價ヲ定メ難ケレハナリ故ニ其住家ヲ評定スルニハ別ニ方法ヲ設ケ郷ノ住家トノ平均

ヲ村ノ住家ノ建築法及ヒ使用法ハ通常其家屋ニ附屬スル耕作地ノ大小及ヒ收入ノ高ニ因テ定ムルモノニシテ(大ナル土地ノ慣習ニ因リ)其住家及ヒ附屬地ヲ一見スレハ其大小及ヒ大ナル土地又小ナル土地ニ屬スル等ヲ知ルコトヲ得ヘシ

郷ニ於テハ住家ヲ貸付クルヲ常トスレハ其價ハ專ハラ其位地大小建築階數ニ因テ定ムルモノナリ之ヲ以テ村ノ住家ノ價ヲ評定スルコト能ハサルハ村ニ於テハ其家屋所有者ニ相當スル家屋及ヒ土地ノ範圍アレハ其餘ノ家屋ハ所有者ニ於テ更ニ其價ナシ何トナレハ村ニ於テハ其餘ノ家屋ヲ他人ニ貸付クルコトヲ常トセサレハナリ

茲ヲ以テ村ノ住家ノ價ハ其附屬地ニ因テ定マリ且家屋稅ヲ公平ニ賦課シ其取立ヲ確固タラシムルニハ必ス住家所屬ノ土地ニ着目ス

ヘキナリ然レモ住家附屬ノ土地ノ收入高ノミニ因テ家屋ノ價ヲ定ムルハ家屋稅ノ性質ヲ失フヘシ

故ニ家屋土地ニ著目シテ家屋稅規則第七條ヲ定メタルナリ此條ニ因レハ家屋稅ヲ課スルニハ必ス家屋ノ大小建築ト之レニ附屬スル土地ノ收入高ヲ酌量シテ家屋ノ使用價ヲ定ムヘシ

普魯西國ニ於テハ土地ノ大小其收入高及ヒ自カラ耕作スルト否ト及ヒ教育ノ度ニ因テ生スル需求ニ從テ土地所有者ヲ三等ニ分テリ

①小ナル土地所有者ニシテ其收入ノミヲ以テ活計ヲ立ルコト能ハス別ニ勞力ヲ爲シ其賃錢ヲ以テ活計ヲ補立スル者

②所有地ノ大小ニ因リ多少自カラ耕作スヘキ者

③大ナル土地所有者(武士領主等)ノ他人ニ其土地ヲ貸付ケスシ

テ自カラ指揮監督ヲ爲ス者

此ノ三等ニ應シテ其住家ヲ三等ニ分ツヘシ(勿論判然タル區別ニ非ス)其各等ノ稅高ハ稅表ヲ以テ之ヲ定メタレ(然レ(レ)例外ヲ許ス(トアリ)最近ノ邑ニ於ケル住家ニシテ同一ノ大小建築ヲ有スル者ノ稅高ヲ越ユヘカラス(邑トハ一般ニ一万人以下ノ人口ヲ有スル者ヲ云フ)布達第五十九條ヲ見ルヘシ

家屋稅規則第八條第五ニ於テ後日家屋ノ種類ヲ定ムヘシト掲ケタレ(州會ノ意見ニ因リテハ其條ニ掲ケタル徵證ハ實際之レナキヲ以テ終ニ之ヲ定ムル(能ハサリシ

家屋稅規則第七條第一ヨリ第三マテノ規則ヲ適用スルニハ其住家村内ニ在ルヘキヲ要スレ(其他ノ住家ハ(同法律第八條第三)其大

小建築ニ因テ其價ヲ定ムヘシ又同規則第五條一ニ於テ百分ノ四ノ稅ヲ課スヘキ建築物及ヒ百分ノ二ヲ課スヘキ建築物ニシテ中等ノ郷ニ於ケル建築物ニ等シキ建築物(第八條第四)ニ於テモ其大小建築ニ因テ其價ヲ定ムヘシ中等ノ郷トハ大ナラス小ナラス則中等位地ニ在ル者ニシテ多ク營業ニ供スル建築物ヲ設ケタル所ヲ云フナリ)布達第四十一條ヨリ第六十一條マテニ於テ家屋稅規則第七條ノ評定法ヲ說明シタリ

營業稅

營業稅ハ營業ヲ爲ス者ハ總テ之ヲ拂フモノニ非ス法律ニ於テ營業稅ヲ課シタル者ニ限ルヘシ(千八百二十年五月三十一日ノ營業稅則第二條營業稅ヲ拂フ者ハ左ノ如シ)千八百七十六年五月廿日布

達第二條)

- 一 商人及ヒ材料ヲ購求シテ商品ヲ製造スル者(手細工人ニ非ス)ハ①②③ノ等級ニ屬シ之ヲ商人稅等級ト號ス(同布達ノ三十七帖ヨリ四十八帖ヲ見ルヘシ)
- 二 旅店酒肆割烹店乾物店ハ④ノ等級ニ屬ス(同布達第四十九條ヨリ第五十三條マテヲ見ルヘシ)
- 三 手傳人數人ヲ傭入ル、カ又ハ製造品ノ販賣店ヲ有スル手細工人ハ⑤ノ等級ニ屬ス(布達第五十四條ヨリ第六十一條マテヲ見ルヘシ)
- 四 船長運送者借車借馬業ハ⑥ノ等級ニ屬ス(布達第六十二條ヨリ第七十六條マテヲ見ルヘシ)

營業稅ハ①②③④⑤ノ等級ニ於テハ中等額ニ因テ課スヘシ中等額トハ一地方内ノ營業者ノ數ヲ以テ其中等額ニ乘スルニ其等級ノ總稅額ト爲ルヘキ高ヲ云フナリ此高ハ之ヲ各營業ノ大小ニ因テ配當シ少クモ法律ニ掲ケタル高ニ因テ其最下額ヲ拂フヘシ(布達二十六條ノ第三)

中等及ヒ最下稅額ハ同一ノ營業ニ於ケルモ亦異ナレリ則チ全國營業ノ盛衰及ヒ貧富ニ於テ之ヲ數等ノ營業稅級ニ分テリ

①② 一等級ニ因リ商人稅ヲ課スル爲メ千八百六十一年七月十九日ノ法律第五條ニ於テ(法律全書六百九十七條)之ヲ二級ニ分テリ此兩級ノ最下額ハ同一ナレモ(百四十四「マルク」)中等額ハ異ナレリ(百八十六「マルク」又ハ二百十六「マルク」)

②③④⑤ノ等級ハ之ヲ四級ニ分テリ(千八百二十年五月卅

日ノ法律⑥)

一 大ナル郷

二 中ナル郷

三 千五百人以上ノ人口ヲ有スル小ナル邑

四 千五百人以下ノ人口ヲ有スル邑及ヒ村

各級ノ中等及ヒ最下額ハ法律ヲ以テ定メタリ(布達第三則三十
五帖)營業稅ヲ賦課スルニハ區ニ因テ之ヲ爲スヘシ①ノ等級
ニ屬スル者ハ縣又ハ伯林郷ニ因テ賦課シ②③④⑤ノ等級ニ屬
スル者ハ一二三級ノ郷邑ハ一區ヲ爲シ一郡内ノ村邑(千五百人
以下ノ人口ヲ有スル邑及ヒ村)ハ合併シテ一區ヲ作ルヘシ

⑥ノ等級ノ營業稅ハ中等額ニ因テ課セス其馬ノ員數船ノ噸數蒸

氣馬力等ニ因リ布達第三⑦ニ掲ケタル(三十七帖)金額ニ因テ

課スヘシ

營業稅ヲ賦課スルニハ左ニ掲クル手續ニ依ルヘシ

一 各等級ニ於テ營業稅ヲ拂フヘキ者ノ氏名簿ヲ作ルヘシ

①一等級ニ於テハ縣廳第三課其他ノ等級ニ屬スル一二三級ニ於

テハ團結長官第四級ニ於テハ郡長ニテ其此名簿ヲ作ルヘシ

營業稅額ヲ評定スルニハ①②③④ノ等級ニ於テハ其等級

ニ於テ營業稅ヲ拂フヘキ者ヨリ委員ヲ出シ其他ノ等級ニ屬

スル一二三級ニ於テハ團結長官第四級ニ於テハ郡長ニテ評

定スヘシ但一ヨリ四級マテニ於テハ營業者モ亦之ニ加ハル

ノイハウス氏説明中

ヘシト雖モ決議ノ權ヲ有セス(千八百六十一年九月十九日
ノ法律第九條法律全書六百九十七帖千八百二十年五月三十
日ノ法律三十一條二十八條ヨリ三十條マテ)

各級ヨリ出スヘキ委員ノ數ハ七名ニシテ三年ノ期限ヲ以テ之ヲ
撰舉スヘシ撰舉ヲ爲サ、ルカ又委員ニ於テ稅ヲ配當セサルハ
賦課官署(Ⓐ)一等級ナレハ縣廳其他ノ等級ナレハ團結長官又ハ
郡長)ニ於テ其稅ヲ配當スヘシ(千八百六十一年七月十九日ノ法
律第九條法律全書六百九十七帖千八百七十四年六月五日ノ法律
第三條法律全書二百十九帖)

縣廳ハ租稅簿ヲ作り(千八百七十六年五月廿日ノ布達九十六條)
故障ノ手續ハ千八百四十年六月十八日ノ租稅期滿免除規則ニ因

リ故障ハ縣廳ニ申立テ控訴ハ大藏卿ニ差出スヘシ

鐵道規則

一千八百七十一年四月十六日ノ獨逸憲法ノ第四條ノ八ニ因レハ鐵道
ハ獨逸國ノ監督ヲ受ケ且其法律ヲ遵奉スヘシ鐵道ニ係ル獨逸國ノ
權限ハ憲法ノ第四十一條ヨリ第四十七條マテニ掲ケリ其他ハ連邦
ノ法律ニ從フヘシ獨逸憲法ヲ實行スル爲メ千八百七十三年六月廿
七日ノ獨逸法律ニ因リ(法律全書ノ百六十四帖)獨逸鐵道局ヲ設ケ
且其權限ヲ定メタリ其後鐵道規則ハ未タ之ヲ發セサレモ汽車運用
規則ハ屢々之ヲ發シタリ

普國ニ於テハ千八百三十八年十一月三日ニ鐵道起業規則ヲ發シテ

(法律全書五百五帖)鐵道ノ大体ヲ定メタリ

此規則ヲ實行スル爲メ發シタル布達ノ著シキモノハ

Ⓐ 千八百三十八年十月三十日ノ布達「カンブツ」氏ノ編纂録第二十

二卷ノ二百一十一帖此布達ハ國王ノ許可ヲ受ケタリ

Ⓑ 千八百四十年九月廿三日ノ内務省布達(内務布達全書四百二十

帖)ナリ

法律中已ニ廢セラレタル箇條ハ左ノ如シ

一 第二條ヨリ第四條マテノ規則ニ於テ獨逸商法及ヒ千八百七十年六月十一日ノ株式會社規則(獨逸法律全書二百七十五帖)ニ抵觸スル者

二 第九條ヨリ第十九條マテノ規則ハ千八百七十四年六月十一日

ノ土地買上規則(法律全書二百二十一帖)ニ因テ廢セラレタリ

三 第二十五條ノ規則ニ於テ鐵道ノ運用ニ依リ殺傷ヲ受ケタル片ノ損害賠償ヲ定メタルモノハ千八百七十一年六月七日ノ獨逸法

律(法律全書二百七帖)ニ因テ廢セラレタリ第二十五條ハ千八百六十九年五月三日ノ法律(法律全書六百六十五帖)ニ因テ増補シ

タリ本條ハ亦政府所屬ノ鐵道ニモ適用スヘシ(千八百五十七年十二月十四日ノ大審院判決「ストリトホルスト」氏判決録二十六卷三百五十九帖)

四 第三十五條ハ千八百七十六年七月廿六日ノ地方行政權限規則第四條三項ニ因テ廢セラレタリ

五 第三十六條ハ千八百七十五年十二月二十日ノ獨逸法律(法律

ノイハウス氏説明中

全書三百十八帖)ニ因テ廢セラレタリ

六 第三十九條第四十條ハ千八百五十九年五月廿一日ノ法律第一

條(法律全書二百四十三帖)ニ因テ廢セラレタリ但之ニ反スル條

約アルモノハ格別ナリ

鐵道ヨリ政府ニ拂フヘキ稅ハ(第三十八條)千八百五十三年五月

三十日ノ法律(法律全書四百四十九帖)ニ因テ之ヲ定メタリ

七 第二十四條第四十四條第四十五條ハ千八百七十一年四月十六

日ノ獨逸憲法第四十一條ヨリ第四十七條マテニ因テ廢止改正増

補セラレタリ

第四十六條ヲ實施スル爲メ鐵道委員局ヲ設ケタリ本局ハ政府ノ

官署ニシテ私立鐵道ヲ監督スルナリ(政府所屬ノ鐵道ハ政府鐵

道監督掛ノ監督ヲ受クヘシ)委員局ノ規則ハ千八百四十八年十

一月廿四日ニ發シタリ(内務布達全書三百九十帖及ヒ千八百五

十三年十月廿八日ノ内務省布達ヲ見合スヘシ内務布達全書二百

四十七帖)

千八百三十八年十一月三日ノ法律ヲ増補セン爲メ千八百四十六

年十二月廿一日ニ鐵道職工規則ヲ發シタリ(法律全書千八百四

十七年ノ二十一帖)

總テ已上ニ掲ケタル規則ニ因レハ鐵道ヲ設クルニハ左ノ手續ニ

從フヘシ

④鐵道ヲ建築セント欲スル者ハ起業ノ概略ヲ記シ千八百七十四

年六月十一日ノ法律第五條(法律全書二百二十一帖)ニ因リ工

ノイハウス氏註明中

部卿ニ願出テ許可ヲ得タル上著手スヘシ(千八百七十四年十月廿二日ノ内務省布達ヲ見合スヘシ)(内務布達全書二百四十一帖)

⑧許可ヲ得タルハ建築ノ準備ニ因リ詳細ナル圖面ヲ作り之ヲ工部卿ニ差出スヘシ其圖面ハ技術及ヒ警察上ノ検査ヲ爲シ之レニ因テ(千八百七十四年六月廿一日ノ法律第十五條)工部卿(千八百三十八年十一月三日ノ法律第四條)ヨリ之ヲ確定スヘシ警察上ノ検査ハ工部省ノ委員及ヒ國內警察官署ノ委員實地ニ赴キ團結及ヒ警察官吏ヲ立會ハシメ公益(道路河流橋梁停車場ノ位置等)及ヒ土地所有者ノ利害ヲ検査スヘシ但成ルヘク雙方ノ協議ヲ遂ケシムヘシ

圖面ヲ確定シタルハ國王ニ於テ其起業ヲ許可シ(同法律三條)且土地買上ノ權利義務ヲ判定スヘシ但千八百七十四年六月十一日ノ法律十八條已下ニ因リ圖面ヲ作テ之ヲ定ムヘシ汽車ノ運轉ヲ始ムルニハ検査ノ上其許可ヲ得タル上ニ非サレハ之ヲ始ムルコトヲ得ス(同法律ノ第二十三條)

千八百三十八年十一月三日ノ法律ハ其後ニ發シタル法律ニ於ケル如ク鐵道ヲ公ノ交通ニ供スヘキ建築物ト爲シ特權ヲ與ヘ且政府ノ監督ヲ受ケシメタリ鐵道ノ特權トハ左ニ掲クル者ヲ云フナリ

①土地買上權ヲ與フルコト

②三年間其鐵路ヲ專用スル權(同法律ノ第二十六條)及ヒ第四十

四條ニ掲ケタル權ヲ有スヘシ

④法律ヲ以テ鐵道及ヒ其通行ヲ保護スルコト特ニ鐵道會社ニ警察權ヲ與フルコト(同法律第二十三條)警察權トハ鐵道及ヒ所屬ノ建築物其交通ヲ保護スル爲メノ規則ヲ維持スル權ヲ云フナリ
鐵道ニ對スル政府ノ義務ハ左ニ掲ケル者ヲ云フナリ

⑤鐵道其所屬建築物ヲ維持シ且行政ノ手續ヲ以テ執行ヲ爲シ(同法律第二十四條第四十七條)及ヒ人車荷物車ヲ發セシメ他ノ鐵道ヲ害セサル様汽車ノ發程到着期日ヲ定ムルコト(獨逸憲法第四十四條)

⑥郵便局ニ對スル義務(千八百七十五年十二月廿八日ノ獨逸郵便規則法律全書三百十八帖)

⑦獨逸憲法第四十六條第四十七條ニ掲ケタル義務

⑧三年ヲ經タル後工部卿ノ承諾ヲ以テ他ノ起業者ニ於テ鐵路ヲ使用スルコトヲ許可スルコト(同法律第二十七條)

⑨工部卿ノ承諾ヲ以テ他ノ起業者ニテ鐵路ヲ接續スルコトヲ許可スルコト(同法律第四十三條)

⑩鐵路建築ノ時受ケタル人物件ノ損害ヲ償フヘキ義務人物件ノ運送賃ハ通常鐵道起業者ニ委子テ之ヲ定メシムレドモ或ハ起業ノ許可ヲ爲スルニ定價表ノ許可ヲ受クヘキコトヲ命スルコトアリ
同法律ノ第二十七條ニ依リ他人ニ汽車ヲ以テ運搬セシメタル
ハ第二十九條ヨリ第三十二條ニ依リ其使用料且運送賃ヲ拂フヘシ元來同法律ニ於テハ政府ニテ鐵道ヲ專有スル主義ナレ

トモ(第三十八條ヨリ第四十二條マテ)千八百五十九年九月廿一日ノ法律第一條ニ因リ(法律全書二百四十三帖)此主義ヲ變シタリ然レモ又近來ハ以前ノ主義ニ復シタリ
千八百三十八年十一月三日ノ法律第二十三條ニ因レハ鐵道警察ハ他ノ警察ヨリ區別シテ一種ノモノト爲シタリ
鐵道警察ハ汽車及ヒ附屬建築物交通ヲ保護スル規則ヲ維持スル事務ヲ主トリ別ニ警察官ヲ任シタリ(千八百七十五年一月四日ノ鐵道警察規則第六十九條已下獨逸中央官署ノ公告紙五十七帖)

連邦委員局ニ於テ發シタル布告ヲ掲クレハ左ノ如シ

一 千八百七十五年一月四日ノ獨逸鐵道警察規則及ヒ千八百七十

八年六月六日及十二日ノ改正規則(內務布達全書百七十二帖)

二 千八百七十八年六月十二日ノ鐵道建築及ヒ器具規則(獨逸中央官署ノ公告紙三百三十二帖及ヒ內務布達全書百五十七帖)

三 千八百七十五年一月四日ノ獨逸鐵道合圖規則(中央官署ノ公告紙七十三帖)及ヒ千八百七十八年六月十二日ノ改正規則(中央官署公告紙三百五十五帖及ヒ內務布達全書百七十九帖)

四 千八百七十八年六月十二日ノ獨逸鐵道規則(中央官署公告紙三百四十一帖及ヒ內務布達全書百六十三帖)

五 千八百七十八年六月十二日ノ鐵道警察官及ヒ運用者規則(中央官署ノ公告紙三百六十四帖內務布達全書百七十九帖)

六 千八百七十五年十二月廿日ノ法律ヲ實施スルカ爲メ(獨逸法